

障害者福祉基本計画の中間評価に向けた アンケート調査報告書

《集計結果》

令和8年度

三田市

《目次》

第1章 調査概要..... 1

第2章 計画の成果指標に基づく調査結果・分析 2

基本目標3 就労や社会参加への支援

- (3) 休みの日などに趣味やスポーツ活動などに参加する人の割合(18歳以上) 2

基本目標4 共に生きるまちづくりの推進

- (1) 「障害のある人への対応や理解が足りている」と答える障害のある人の割合..... 5

- (2) 地域で行われた行事や活動への参加割合(18歳以上) 11

基本目標5 権利擁護と相談体制の充実

- (1) 「どこに相談したらいいかわからない」と答える障害のある人の割合 14

- (3) 「障害や特性があることで差別を受けたり嫌な思いをしたことがある」と答える障害のある人

- の割合 17

第3章 市民の「生の声」と具体例 26

- 1 問17: 支援を受けて嬉しかったこと・良かったこと【者18歳以上】 26

- 1 問16: 支援を受けて嬉しかったこと・良かったこと【児18歳未満】 27

- 2 問17: 差別や嫌な思いをした具体例【者18歳以上】 28

- 2 問16: 差別や嫌な思いをした具体例【児18歳未満】 29

- 3 問18(児問17): 障害のある人への市民の理解を深めるために必要なこと 30

- 4 問19: 障害福祉施策の推進に関する具体的な意見【者18歳以上】 31

- 4 問18: 障害福祉施策の推進に関する具体的な意見【児18歳未満】 33

【別紙(巻末資料)】

- ・ アンケート単一集計結果一覧

第1章 調査概要

調査目的	第6次障害者福祉基本計画の進捗状況について中間評価を行うにあたり、今後の障害福祉施策を検討するための基礎資料とするため、障害者手帳の所持者を対象にアンケート調査を実施し、生活の状況や障害者福祉施策に対する認識などを把握する。				
調査対象	下記、手帳種別、地域別で層化抽出 ① 18歳以上の障害者手帳所持者：1,045名（身体696、療育147、精神202） ② 18歳未満の障害者手帳所持者：228名（身体22、療育202、精神4）				
調査数	1,273名（者：1,045名 児：228名）				
調査方法	郵送による配布、郵送・インターネットによる回収				
調査票回収数	郵送 575件 者：506件 児：69件	計 703 件	回収率	55.2%	
	WEB 128件 者：84件 児：44件				

◆本資料の見方◆

※アンケート調査結果における各設問の母数N(Number of caseの略)は、設問に対する有効回答者数を意味する。

※回答結果は小数点第2位以下を四捨五入。この関係で、単回答（複数の選択肢からひとつだけを選ぶ形式）の合計値がちょうど「100.0」にならない場合がある。

※複数回答（2つ以上の回答を選ぶ形式）の場合、回答は有効標本数全体に対して各々の割合を示すものであり、各選択肢の回答を合計しても「100.0」とはならない。

※本報告書における「N」「SA」「MA」「数量」は、それぞれ下記とする。

「N」＝設問の有効回答者数を指す

「n」＝各グループにおける実人数を指す

「SA」＝単回答を指す（Single Answerの略）

「MA」＝複数回答を指す（Multiple Answerの略）

「数量」＝数量回答を指す

※図表中において「無回答」とある項目については、「回答のなかったもの」を表す。

※本文中の設問の選択肢が長い場合は、簡略化している場合がある。

※本書では、クロス集計や自由記述を中心とした『分析結果』を本編（第2章～第3章）に掲載している。

各設問の全体的な回答割合やクロス集計については、巻末の別紙『アンケート単一集計結果一覧』参照。

第2章 計画の成果指標に基づく調査結果・分析

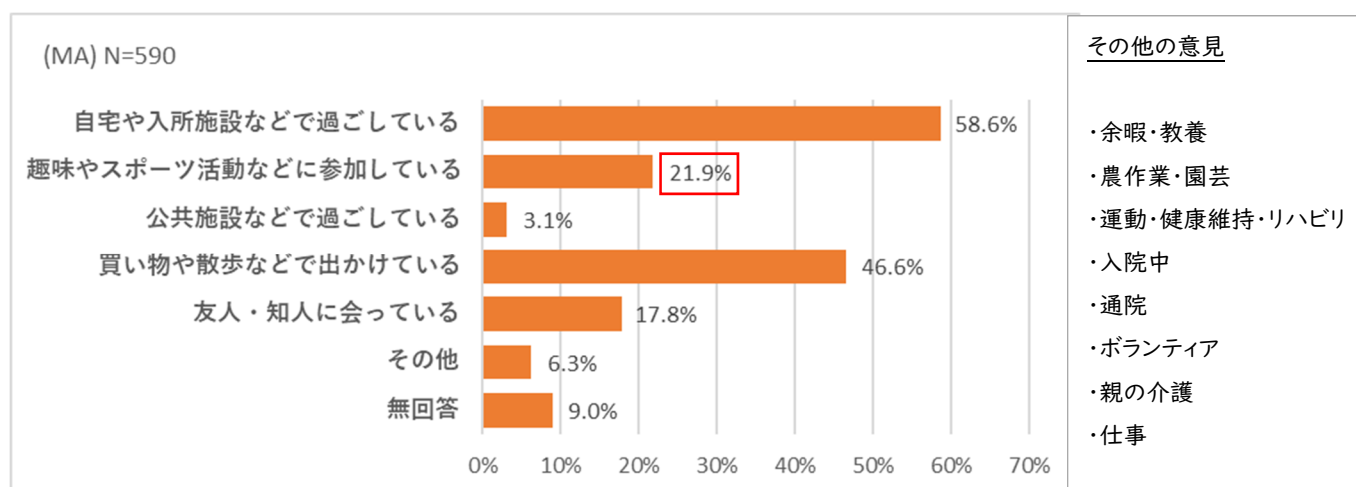
基本目標3 就労や社会参加への支援（福祉基本計画 P69）

（3）休みの日などに趣味やスポーツ活動などに参加する人の割合（18歳以上）

項目	指標	当初基準 (R4)	目標 (R11)	中間評価 (R8)	差分 (R8-R4)
社会参加の促進を図る	休みの日などに趣味やスポーツ活動などに参加する人の割合	19.8%	25.0%	21.9%	+2.1%

問10 仕事や通所施設、学校などが終わった後や休みの日などは、どのように過ごしていますか
【MA】

「趣味やスポーツ活動などに参加している」(21.9%)は、当初基準値19.8%に対し、2.1%増加。

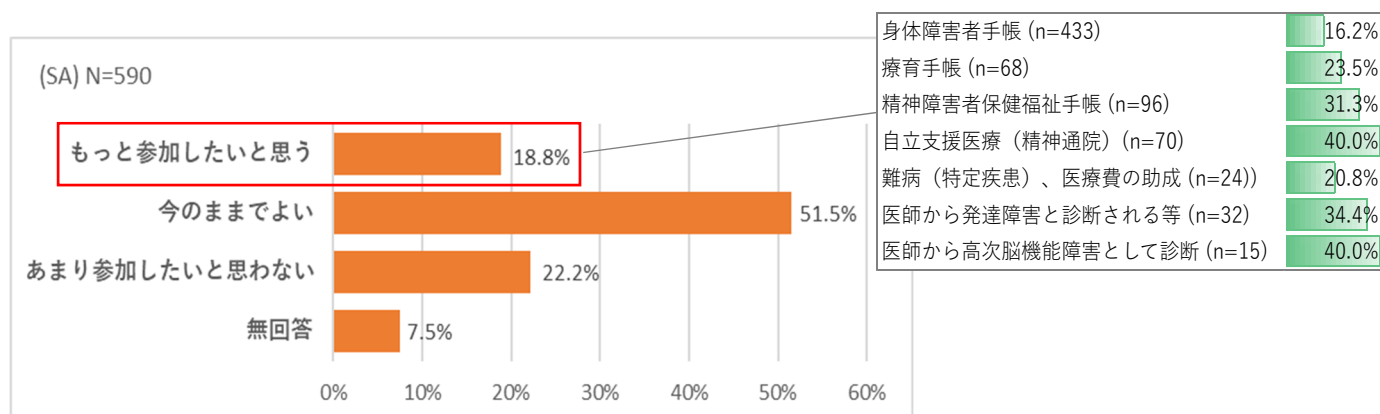


問10付問1 今の過ごし方よりも、もっとスポーツ・文化活動、生涯学習などの社会活動に参加したいと思いませんか。【SA】

「今のままでよい」(51.5%)が突出。次に「あまり参加したいと思わない」(22.2%)、「もっと参加したいと思う」(18.8%)が続いている。

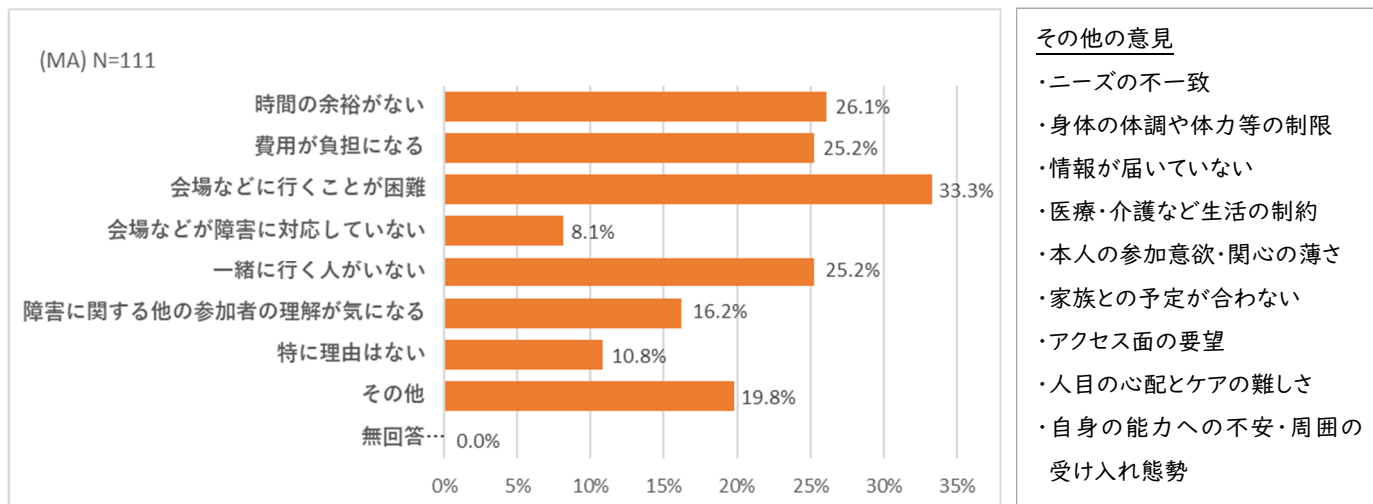
また、「もっと参加したいと思う」と回答した人は、「自立支援医療（精神通院）の支給認定を受けている」「医師から高次脳機能障害として診断されたことがある」(40.0%)、「医師から発達障害と診断されたり、その疑いがあるといわれたことがある」(34.4%)が多かった。

手帳の内訳としては、精神障害者保健福祉手帳＞療育手帳＞身体障害者手帳の順に多かった。



問10付問2 希望どおりに社会活動に参加できていない理由は何ですか。【MA】

社会活動に「もっと参加したいと思う」と回答した人は、「会場などに行くことが困難」(33.3%)が一番多く、次に「時間の余裕がない」(26.1%)、「費用が負担になる」「一緒に行く人がいない」(25.2%)が主な理由として挙げられている。その他、ニーズの不一致、身体的・体力的な制限、情報が届いていない等の理由もある。



<問10付問2:会場などに行くことが困難>×<手帳種別>×<年齢>

「会場などに行くことが困難」を手帳別にみると、各手帳所持者ともに一定の割合で困難さを抱えている。

特に年齢層別の傾向として、身体障害者手帳は80歳代以上(39.3%)が突出しており、療育手帳では20～30歳代(40.0%)、精神障害者保健福祉手帳では50歳代(50.0%)の割合が高かった。

(N=37)

身体障害者手帳 n=28	療育手帳 n=5	精神障害者保健福祉手帳 n=8	自立支援医療(精神通院) n=6	難病(特定疾患)、医療費の助成 n=3	医師から発達障害と診断される等 n=4	医師から高次脳機能障害として診断 n=2
6.5%	7.4%	8.3%	8.6%	12.5%	12.5%	13.3%

※本表の構成比は、母集団構成に合わせ補正を行っている。

(N=37)

	身体障害者手帳 n=28	療育手帳 n=5	精神障害者保健福祉手帳 n=8	自立支援医療(精神通院) n=6	難病(特定疾患)、医療費の助成 n=3	医師から発達障害と診断される等 n=4	医師から高次脳機能障害として診断 n=2
20歳代	3.6%	40.0%	25.0%	16.7%	0.0%	50.0%	0.0%
30歳代	7.1%	40.0%	12.5%	16.7%	0.0%	25.0%	0.0%
40歳代	3.6%	0.0%	12.5%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%
50歳代	7.1%	20.0%	50.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%
60歳代	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	50.0%
70歳代	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	50.0%
80歳以上	39.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

<問10付問2:会場などに行くことが困難>×<地区>

「会場などに行くことが困難」を地区別にみると、高平地区の人が16.7%で高かった。

(N=37)

三田地区 n=8	三輪地区 n=4	広野地区 n=2	小野地区 n=1	高平地区 n=3	藍地区 n=0	本庄地区 n=0	フラワータウン地区 n=8	ウッディタウン地区 n=10	カルチャータウン地区 n=1	無回答 n=0
7.7%	5.9%	5.0%	5.3%	16.7%	0.0%	0.0%	6.6%	7.5%	9.1%	0.0%

※本表の構成比は、母集団構成に合わせ補正を行っている。

<問10付問2:一緒に行く人がいない>×<手帳種別>×<年齢>

「一緒に行く人がいない」を手帳別にみると、療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の回答割合が高くなっている。

手帳種別ごとの年齢傾向としては、身体障害者手帳は、70歳代(33.3%)、療育手帳は、20歳代(71.4%)、精神障害者保健福祉手帳は、30・50歳代(37.5%)がそれぞれ高い。

(N=28)

身体障害者 手帳 n=18	療育手帳 n=7	精神障害者保 健福祉手帳 n=8	自立支援医療 (精神通院) n=7	難病(特定疾 患)、医療費 の助成 n=3	医師から発達 障害と診断さ れる等 n=3	医師から高次 脳機能障害と して診断 n=0
4.2%	10.3%	8.3%	10.0%	12.5%	9.4%	0.0%

※本表の構成比は、母集団構成に合わせ補正を行っている。

(N=28)

	身体障害者 手帳 n=18	療育手帳 n=7	精神障害者保 健福祉手帳 n=8	自立支援医療 (精神通院) n=7	難病(特定疾 患)、医療費 の助成 n=3	医師から発達 障害と診断さ れる等 n=3	医師から高次 脳機能障害と して診断 n=0
20歳未満	0.0%	14.3%	12.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20歳代	5.6%	71.4%	0.0%	14.3%	0.0%	33.3%	0.0%
30歳代	11.1%	14.3%	37.5%	28.6%	0.0%	33.3%	0.0%
40歳代	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
50歳代	11.1%	0.0%	37.5%	42.9%	0.0%	0.0%	0.0%
60歳代	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%
70歳代	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	0.0%
80歳以上	22.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	12.5%	14.3%	0.0%	33.3%	0.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%

●問10付問2(その他):希望どおりに社会活動に参加できていない理由

その他理由としては、ニーズの不一致、身体の体調や体力等の制限、情報が届いていない等が挙げられた。

(N=22)

カテゴリー	抜粋・要約	割合
ニーズの不一致	・希望の活動がない、興味が湧く活動がない、 参加したいスポーツイベントが少ない ・施設内に指導する人がいない	22.7%
身体の体調や体力等の制限	・体があまり丈夫ではない、疲れやすい ・認知の病気のため思い通りに体を動かすことが困難	22.7%
情報が届いていない	・どのようなイベントがあるのか知らない、見つけれない ・情報をどこで入手すれば良いか分からない	13.6%
医療・介護など生活の制約	透析、夫の介護のため	9.1%
家族との予定が合わない	妻とのイベントの予定が合えば参加する	4.5%
参加を後押しする仕組み・アクセス面の要望	バス券やタクシー券を利用すれば行きやすいかも	4.5%
自身の能力への不安・周囲の受け入れ態勢	自分にそのスポーツができるかわからない	4.5%
人目の心配とケアの難しさ	会話ができない、よだれが止まらない、トイレが我慢できない	4.5%
本人の参加意欲・関心の薄さ	本人の積極性のなさ	4.5%
不明	無回答	9.1%

基本目標4 共に生きるまちづくりの推進（福祉基本計画 P70）

(1)「障害のある人への対応や理解が足りている」と答える障害のある人の割合

項目	指標	当初基準値 (R4)	目標 (R11)	中間評価 (R8)	差分 (R8-R4)
障害のある人への対応や理解の促進を図る	「障害のある人への対応や理解が足りている」と答える障害のある人の割合	18歳以上 37.5%	18歳以上 70.0%	18歳以上 33.5%	-4.0%
		18歳未満 40.2%	18歳未満 70.0%	18歳未満 34.5%	-5.7%

問15（児：問14）あなたは、普段の生活の中で、三田市では障害のある人への対応や理解が足りていると思いますか。三田市全体のことを考えて教えてください。【SA】

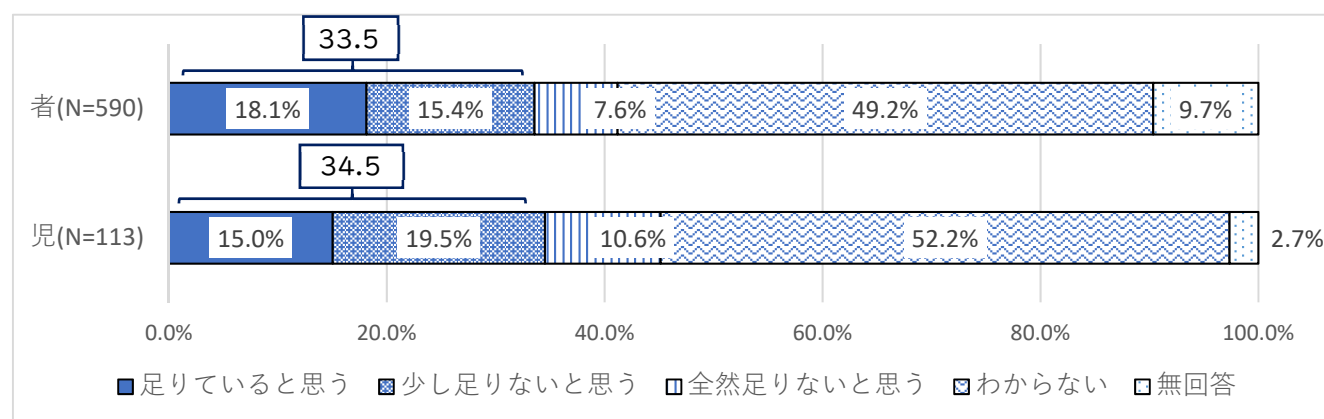
※「障害のある人への対応や理解が足りている」の判断は、「足りていると思う」「少し足りないと思う」の合計を指標としている。

【障害者（18歳以上）】

障害者は、33.5%で当初基準値37.5%に対し、3.9%減少。一方で、「全然足りないと思う」（7.6%）は、当初基準値13.5%に対し5.9%減少し、「わからない」（49.2%）は、当初基準値41.7%に対し7.5%増加。

【障害児（18歳未満）】

障害児は、34.5%で当初基準値40.2%に対し、5.7%減少。一方で、「全然足りないと思う」（10.6%）は当初基準値23.2%に対し12.6%減少し、「わからない」（52.2%）は、当初基準値34.5%に対し17.7%増加。

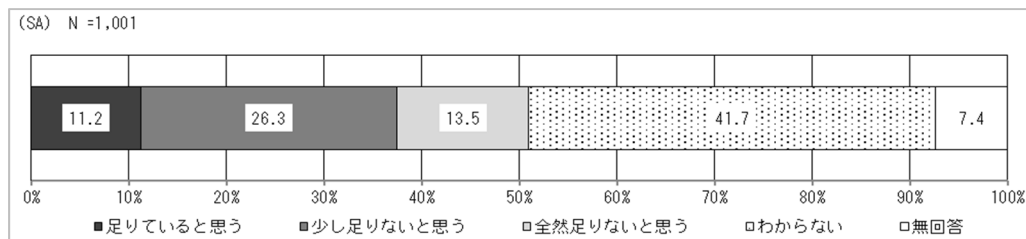


■ 足りていると思う ■ 少し足りないと思う □ 全然足りないと思う □ わからない □ 無回答

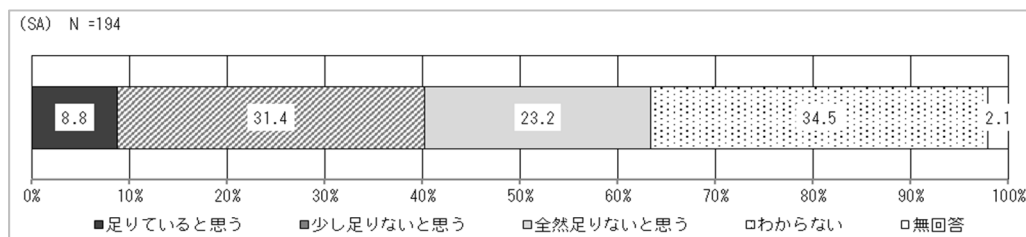
(R4)

当初アンケート結果

者（18歳以上）
N=1,001



児（18歳未満）
N=194



問15(児:問14)付問 そう思う理由は何ですか。【自由記述】

●足りていると思う理由(現状の施策への評価)

者(18歳以上)

足りていると思う理由は、主に、「現状への満足・全体的な意見」(14.4%)、「経済的支援」(7.2%)に多い。

(N=153)

大分類	中分類	抜粋・要約	割合
経済的支援	経済的支援・助成制度の充実	日常生活用具、医療費、交通費、障害特別手当等の助成	7.2%
意識・社会的理解	市民の理解・周囲の人の親切さ	学校関係者や周りの人が親切、困っていると助けてもらった	3.3%
行政窓口・手続き	職員・専門職の丁寧な対応・情報発信	きいてネット、ケアマネージャー、市職員の対応が親切	5.9%
ハード面	市役所・施設の利用しやすさ	市役所に行きやすい、市役所で過ごしやすい	0.7%
現場の支援体制	福祉・介護サービスの充実	デイサービス、訪問リハ、訪問看護等の生活サポート	3.3%
現状への満足・全体的な意見	市への満足と現状の不自由のなさ	十分対応していると思う	14.4%
総計			34.6%

※本設問における回答総数:53件

児(18歳未満)

足りていると思う理由は、主に、「現場の支援体制」のうち、「サポート体制の充実」(6.7%)に多い。

(N=30)

大分類	中分類	抜粋・要約	割合
現場の支援体制	サポート体制の充実	市や学校、部活動等でのサポートが充実している	6.7%
	障害に関する授業の定着	授業で障害に関することを学ぶから	3.3%
現状への満足・全体的な意見	トラブル未経験	直接、何かを言われた事がない	3.3%
総計			6.7%

※本設問における回答総数:4件

●足りないと思う理由（課題）

者（18歳以上）

足りないと思う理由は、「行政窓口・手続き」、「意識・社会的理解」、「ハード面」、「経済的支援」の順に多い。個別でみると、「個別のニーズに寄り添う相談支援と対応不足」（10.5%）、「交通移動・インフラの課題（不便さ・路線縮小）」（9.8%）、「地域社会のモラルと配慮不足」「特定の助成・手当の不足」「情報発信の不足と分かりにくさ」（5.9%）の順に多かった。

(N=153)

大分類	中分類	抜粋・要約	割合
経済的支援	移動・通院コストの負担	交通費・通院費の負担 (タクシー料減額、バス代無料にすべき)	3.3%
	特定の助成・手当の不足	・中途障害者に対する補助メニューが少ない 本人のみや高齢者向けばかり ・物価高騰の為、生活が苦しい経済的な援助がない	5.9%
	世帯所得制限による支援の差	非課税世帯との差を感じる	1.3%
意識・社会的理解	地域社会のモラルと配慮不足	・杖で歩いても周りのスピードが速いので怖い ・健常者が自前の車椅子のステッカーを貼り障害者スペースに駐車している ・ひとりひとりが自分事として考えてほしい	5.9%
	周囲の目・社会的孤立	・障害をカミングアウトすることへのハードルは高い ・町中では偏見の目で見られる。クスクス笑われる	3.3%
	外見から分からない障害への社会的理解・配慮不足	・自分から障害があることを言わないと職場の人には理解してもらえない ・境界知能や発達障害でそもそも理解できない人がいることを知ってほしい ・外見だけで判断出来ない為の仕組みや特徴あるヘルプマーク等を作成して欲しい ・中学からは障害児に関わろうとする人はいなかった	4.6%
情報発信・周知 (情報の届きやすさ)	情報発信の不足と分かりにくさ	・相談場所がどこかわからない ・市が障害者に対してどのような対策をしているかを もっと発信してほしい ・市役所の情報発信もほとんど健常者向けレベルで 分かり難い。案内チラシも並べているだけ	5.9%
行政窓口・手続き	個別のニーズに寄り添う相談支援と対応不足	・本人の具体的支援が欲しい。 ・障害に対する知識・理解が不足している ・対応してくれる人とそうでない人との差 ・親と相談員の主導で物事を決められる ・縦割り行政で結局どこに行っても解決することはない 最終的に責任持って対応する主体がない	10.5%
	手続きの煩雑さ	・市役所に出向く必要があること ・症状の状態によっては来庁が厳しい。オンライン希望	2.6%
	窓口の時間的制約	・市役所の窓口が閉まるのが早い ・平日仕事の人は役所に行けないため、家族は仕事を休んで市役所の手続きに行く。土日も窓口希望	2.0%
行政の制度・ルール の壁 (制度設計・自治体格差)	他自治体との格差	・他府県に比べ福祉行政が少し足りない ・手帳を見せて割引に時間がかかるので、大阪のように福祉カードになってほしい	3.3%
	行政の制度・ルール の壁	・障害施設で働いているが9,300円市に払っている 何の為に働いているかわからない ・障害の程度に比べ、利用できる支援に差がある	1.3%

ハード面	道路・施設のバリアフリー不足	・バリアフリー設備が不十分 ・障害者用の駐車スペースが不足しており、歩道が整備されておらず車いすでは大変 ・移動しづらい場所が多い。移動先で障害対応がない ・道路段差の解消、障害者用トイレ等の設置を図り、民間施設への補助拡充	3.3%
	交通移動・インフラの課題（不便さ・路線縮小）	・バスの乗降時の高さが高く昇降が困難 ・インフラが充実しておらず、通院等が不便 ・マイクロバス多く運行してほしい ・郊外地はどこまでも置き去りな感じが強い ・最寄りのバス停は横断歩道も信号もない ・神姫バスも路線縮小が続いており、生活が不安 ・車が運転できないので選挙にいけない ・交通手段が限られているのに、本数が少ない ・長時間立って待つことが大変負担	9.8%
現場の支援体制	防災・災害時の避難体制の不足	地震等の防災訓練（車イス生活）	0.7%
	医療環境への不安	・市民病院が遠くなる、医療機関も少ない ・市民病院がなくなるから。地域医療衰退	2.0%
	日常生活支援の不足と将来への不安	ゴミ出しが不安	0.7%
	支援人材の不足と高齢化	・ヘルパーや訪問看護師の不足がかなり危機的 ・福祉事業を起こそうとする方の声を聞くが、「三田ではできない」のは何故か残念でならない	1.3%
	相談体制の不足	家族以外相談する人がいない	1.3%
	就労の場・福祉施設の不足	就労継続移行事業所の数が少ない	2.0%
	グループホームの不足	グループホームが三田市にはないと思う	0.7%
	生活自立訓練の不足	時間の使い方の指導が欲しい	0.7%
総計			71.9%

※本設問における回答総数：110件

児（18歳未満）

足りないと思う理由は、主に、「現場の支援体制」、「情報発信・周知」、「就労支援」に関することが多い。
個別でみていくと、「理解啓発不足」「就労選択の制限」（10.0%）、「教育面での支援不足」「放課後デイサービス施設の不足」「サービス情報の周知不足」（6.7%）の順に多かった。

(N=30)

大分類	中分類	抜粋・要約	割合
経済的支援	金銭サポートの欠如	金銭面の不足	3.3%
	特別児童手当の制限	特別児童手当は、所得制限を超過すると全額支給停止になるが、児童手当には所得制限がないのは不公平。全額支給停止ではなく、せめて減額を希望	3.3%
意識・社会的理解	障害への固定観念	障害者＝何かあぶない人、何かしてくるかもしれない人というイメージを持たれている方が多い	3.3%
	社会的障壁	地域校に在籍中、障害児の保護者は、他の保護者との間に常に壁を感じていた。健常者の保護者と同様に、PTA役員を務めることも負担であった また、特別支援学校への転校後は、以前の関係者との交流が途絶え、挨拶すらしてくれない人もいた	3.3%
	特性ある家庭の生活の質が不明	特性を持つ家庭がその人らしく生活できているか不明	3.3%
行政窓口・手続き	行政サービスが悪い	障害者に対する行政のサービスが悪い	3.3%
	行政体制の脆弱性	縦割りですべてで説明が必要。年ごとに担当者が変わり引継ぎもしっかり行われていないことがある	3.3%
行政の制度・ルールの壁 (制度設計・自治体格差)	サービス利用条件の制限	補装具の助成など近隣の市に比べて認められにくいと感じている	3.3%
	福祉装具の適切・迅速な提供の課題	車椅子などの福祉装具の作り替えや買い替えがタイミングよくできない	3.3%
ハード面	道路・施設のバリアフリー不足	道が凸凹などところが多く、車椅子での移動がしにくい。学校アプリでは、障害児が参加できない地域クラブ情報が何度も届く	3.3%
	交通移動・インフラの課題（不便さ・路線縮小）	通所の為の交通手段に困る	3.3%
現場の支援体制	教育面での支援不足	・通常級に入った際のケア等が心配であり、ステップアップを控えてしまう ・小学校の時に比べて支援が足りておらず、自分に合ったカリキュラムを作成してもらえない	6.7%
	放課後デイサービス施設の不足	放課後デイサービスなど利用できる施設が少ない（老人向けのデイは多いが）	6.7%
	保育園の看護師不足	看護師のいる保育園がひとつしかない	3.3%
	通級学級の受け入れ不足	学校において、希望しても通級学級に入ることが難しい	3.3%
	教育環境の改善要望	・三田市では、大学受験対策をはじめとする学習サポート環境が非常に不十分。特に、集中して勉強できる場所や、学生をサポートできる教育人材が不足している ・発達障害への理解が不足しており、特に学習意欲のある発達障害の学生への支援体制が整っていない	3.3%
	支援者不足	サポート者の不足	3.3%
	リハビリテーション施設の不足	子供を対象としたリハビリテーション施設がない	3.3%
	病児保育の受け入れ不足	親が仕事を行う際、預けられる場所が限られる。病児保育も少なく、障害が理解されるか不安	3.3%

	デイサービスの不足	デイサービスが少ない	3.3%
	当事者同士の居場所づくり	障害者の家族が集まれる交流イベント、スペース等	3.3%
情報発信・周知 (情報の届きやすさ)	理解啓発不足	・学校の保護者や地域の年配者等において、障害特性への理解不足から「知りたくない」「怖い」といった誤解や偏見が生じており、気を遣う(本人は出かけるときに大きな声を出したり、突然話しかけに行ってしまう) ・発達障害(ASDとADHD)の特性で悩んでいるが、周囲の理解やサポートが希薄	10.0%
	サービス情報の周知不足	・どのような支援があるのか不明瞭 ・知的・発達障害のある子どもが通える習い事が見つからない ・障害のある子ども向けのサービスの存在が分からないため、補助金等の申請もできない ・個別の機関に一つ一つ問い合わせて情報を収集しており、保護者が自ら探す負担がある	6.7%
	就学情報の周知不足	進学についての情報があまりない	3.3%
就労支援	当事者の親への就労支援	障害児を育てる親への就労支援(特に高校～成人後の平日夕方までの居場所の充実を希望)	3.3%
	就労選択の制限	卒業後の就労先の選択肢が狭く感じる。医ケア児が高校卒業後、通える所が少ない。受け入れが追い付いていない	10.0%
総計			110.0%

※本設問における回答総数:34件

基本目標4 共に生きるまちづくりの推進（福祉基本計画 P70）

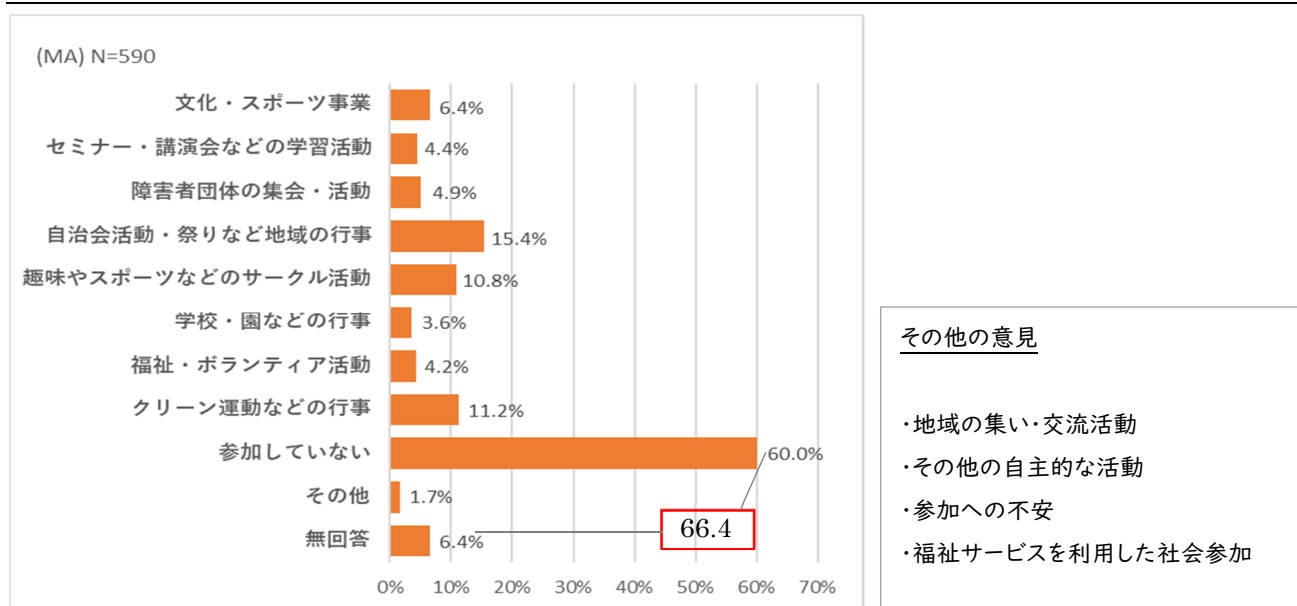
（2）地域で行われた行事や活動への参加割合（18 歳以上）

項目	指標	当初基準（R4）	目標（R11）	中間評価（R8）	差分（R8-R4）
地域での交流促進 や参加しやすい環 境づくりを進める	地域で行われ た行事や活動 への参加割合	31.2%	50.0%	33.6%	+2.4%

問13 最近1年間、あなたは地域で行われている行事や活動に参加しましたか。【MA】

地域で行われている行事や活動への参加率は33.6%で、当初基準値31.2%に対し、2.4%増加。

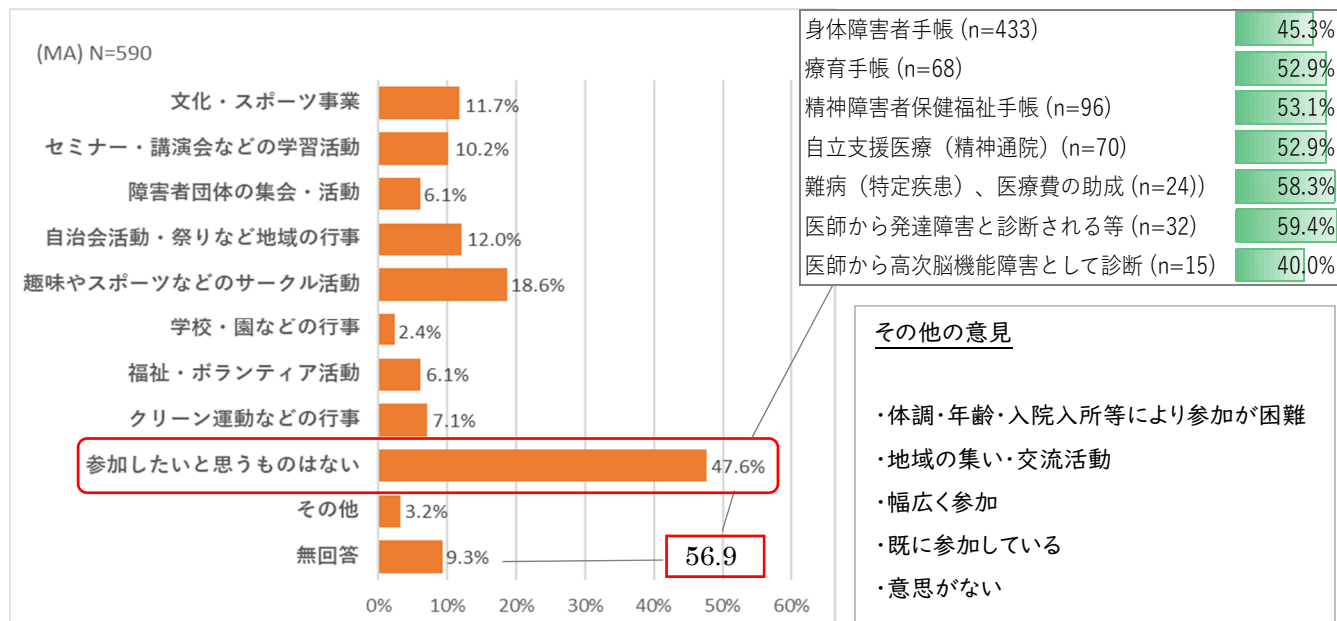
※参加率＝「参加していない」・「無回答」の割合を除いた実参加率で算出。



問14 地域で行われている行事や活動のうち、あなたが今後参加したいと思うものは何ですか【MA】

地域で行われている行事や活動への今後の参加率は43.1%で、問13の最近の参加率に比べ9.5%増加。

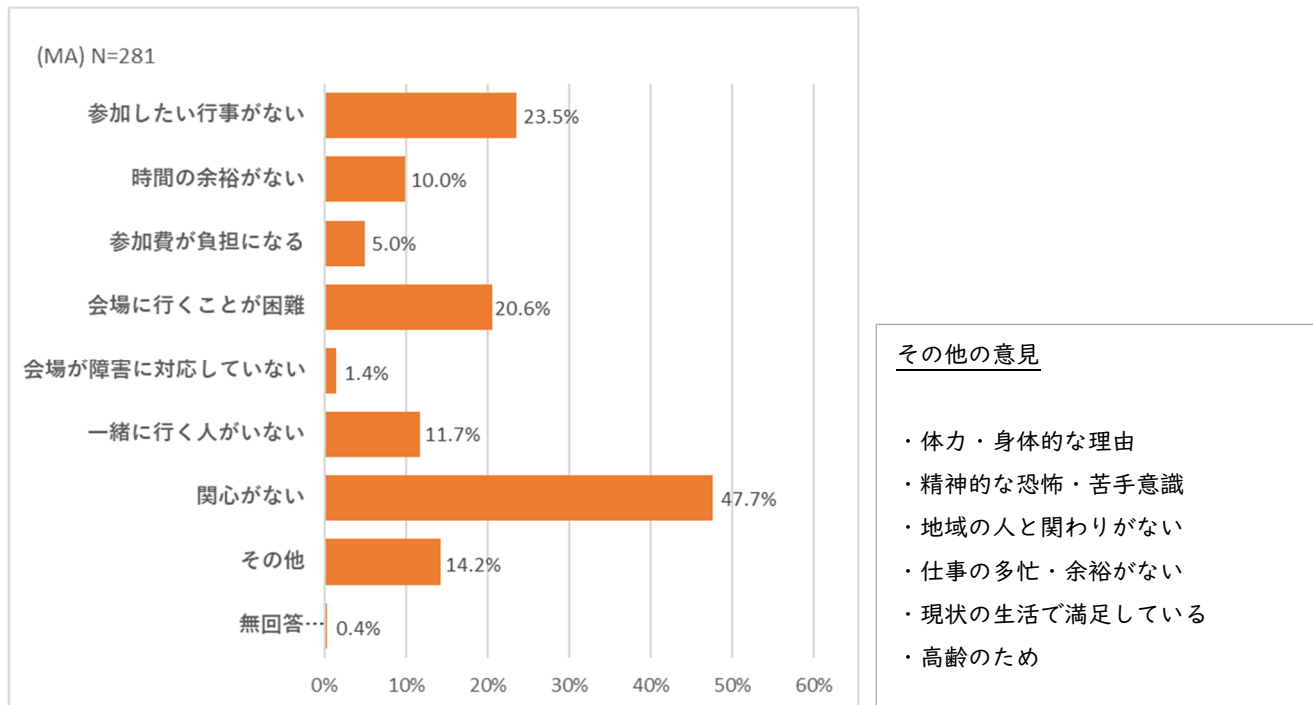
また、「参加したいと思うものはない」と回答した人のうち、手帳の種別で大差はないが、精神障害者保健福祉手帳>療育手帳>身体障害者手帳の順に多かった。



問14 付問1 【参加意向のない人】＜参加したいと思うものがない方のみ＞

地域の行事や活動で、参加したいと思うものがない理由は何ですか。【MA】

地域の行事や活動に「参加したいと思うものはない」と回答した人は、「関心がない」（47.7%）が一番多く、次に「参加したい行事がない」（23.5%）、「会場などに行くことが困難」（20.6%）が主な理由として挙げられている。その他、体力・身体的な理由、精神的な恐怖・苦手意識等の理由がある。



＜問14付問1：関心がない＞×＜手帳種別＞×＜年齢＞

「関心がない」を手帳別にみると、療育手帳が最も多かった。

手帳種別ごとにどの年齢が多かったかをみると、身体障害者手帳は70歳代が35.6%、療育手帳は20歳代が33.3%、精神障害者保健福祉手帳は40歳代が21.7%であった。

(N=134)						
身体障害者手帳 n=90	療育手帳 n=24	精神障害者保健福祉手帳 n=23	自立支援医療（精神通院） n=15	難病（特定疾患）、医療費の助成 n=5	医師から発達障害と診断される等 n=7	医師から高次脳機能障害として診断 n=4
20.8%	35.3%	24.0%	21.4%	20.8%	21.9%	26.7%

※本表の構成比は、母集団構成に合わせ補正を行っている。

(N=134)							
	身体障害者手帳 n=90	療育手帳 n=24	精神障害者保健福祉手帳 n=23	自立支援医療（精神通院） n=15	難病（特定疾患）、医療費の助成 n=5	医師から発達障害と診断される等 n=7	医師から高次脳機能障害として診断 n=4
20歳未満	0.0%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20歳代	0.0%	33.3%	17.4%	13.3%	0.0%	14.3%	0.0%
30歳代	3.3%	29.2%	17.4%	26.7%	0.0%	42.9%	0.0%
40歳代	3.3%	16.7%	21.7%	20.0%	20.0%	14.3%	0.0%
50歳代	5.6%	0.0%	17.4%	13.3%	0.0%	14.3%	0.0%
60歳代	21.1%	12.5%	17.4%	20.0%	20.0%	14.3%	25.0%
70歳代	35.6%	0.0%	0.0%	0.0%	40.0%	0.0%	25.0%
80歳以上	30.0%	0.0%	8.7%	6.7%	20.0%	0.0%	50.0%
無回答	1.1%	4.2%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

<問14付問1：会場などに行くことが困難>×<地区>

「会場などに行くことが困難」を地区別にみると、高平地区（22.2%）、広野地区（17.5%）で高かった。

(N=58)

三田地区 n=8	三輪地区 n=7	広野地区 n=7	小野地区 n=2	高平地区 n=4	藍地区 n=3	本庄地区 n=2	フラワータウン地区 n=10	ウッディタウン地区 n=14	カルチャータウン地区 n=0	無回答 n=1
7.7%	10.3%	17.5%	10.5%	22.2%	6.7%	9.1%	8.3%	10.5%	0.0%	11.1%

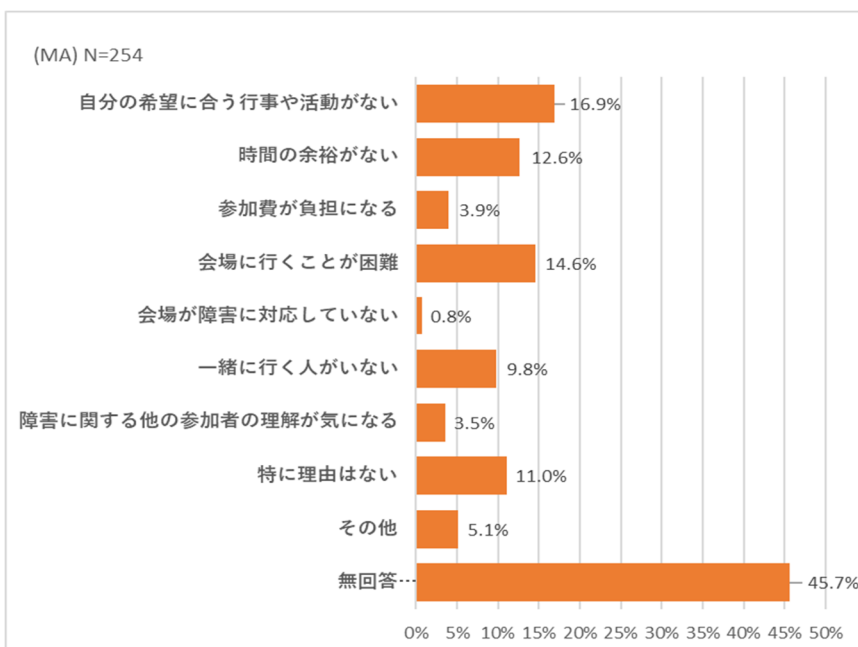
※本表の構成比は、母集団構成に合わせ補正を行っている。

問14付問2 【参加意向のある人】<参加したいと思うものはあるが、参加できていない方のみ>

地域の活動や行事で、参加したいと思うものに参加できていない理由は何ですか【MA】

地域の行事や活動に「参加したいと思うものはあるが、参加できていない」と回答した人は、「自分の希望に合う行事や活動がない」（16.9%）が一番多く、次に「会場に行くことが困難」（14.6%）、「時間の余裕がない」（12.6%）が主な理由として挙げられている。

その他、体力・身体的な理由、障害・病気による支障や不安、情報アクセス・広報の課題の理由等がある。



その他の意見

- ・体力・身体的な理由
- ・障害・病気による支障や不安
- ・情報アクセス・広報の課題
- ・高齢のため
- ・対人関係の苦手意識
- ・仕事・タイミングの都合

基本目標5 権利擁護と相談体制の充実（福祉基本計画 P70）

（１）「どこに相談したらいいかわからない」と答える障害のある人の割合

項目	指標	当初基準値 (R4)	目標 (R11)	中間評価 (R8)	差分 (R8-R4)
相談体制 の周知を 図る	「どこに相談したらいい かわからない」と答え る障害のある人の割合	18歳以上 18.8% 18歳未満 18.4%	18歳以上 15.0% 18歳未満 15.0%	18歳以上 15.1% 18歳未満 18.3%	+3.7% +0.1%

問12（児：問11） 困ったことや心配に思っていることを、家族や親戚、日ごろ通う場所（職場や学校、通所施設など）以外の人に相談したことがありますか。【SA】

問12（児：問11）付問1 相談したことがない理由は何ですか。【MA】

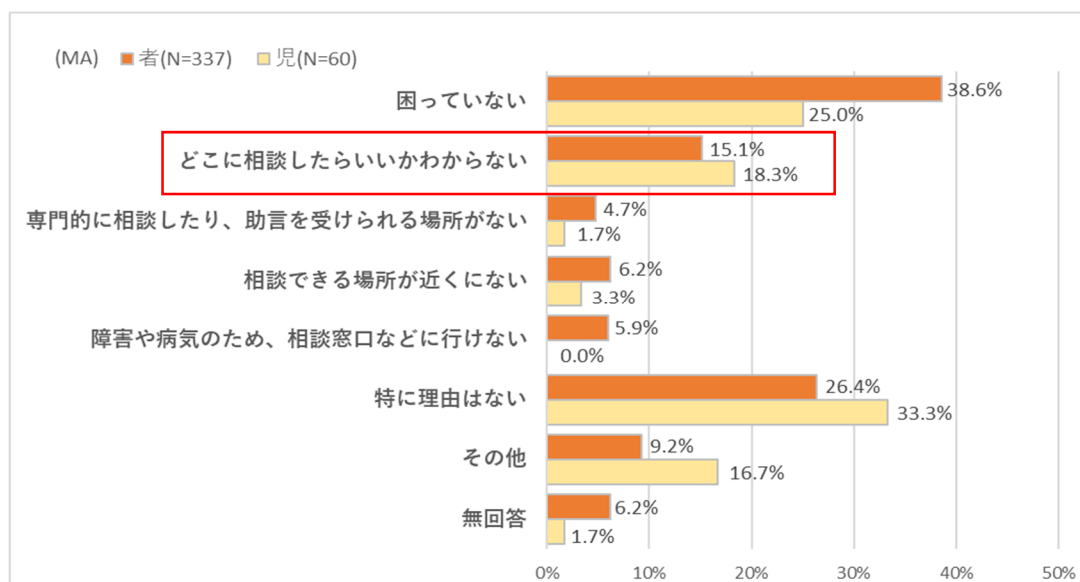
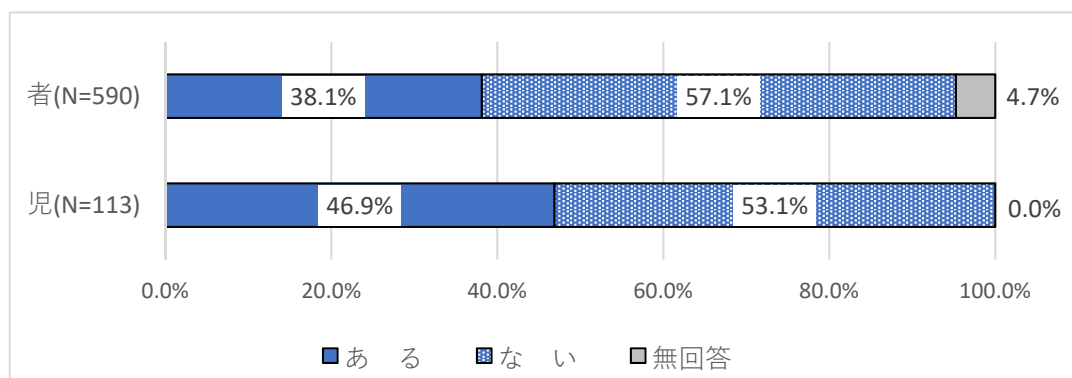
「ない」と回答した割合について、障害者 57.1%、障害児 53.1%となり、どちらも半数以上を占めている。

【障害者（18歳以上）】

「どこに相談したらいいかわからない」（15.1%）は、当初基準値 18.8%に対し、3.7%減少。

【障害児（18歳未満）】

「どこに相談したらいいかわからない」（18.3%）は、当初基準値 18.4%に対し、0.1%減少。

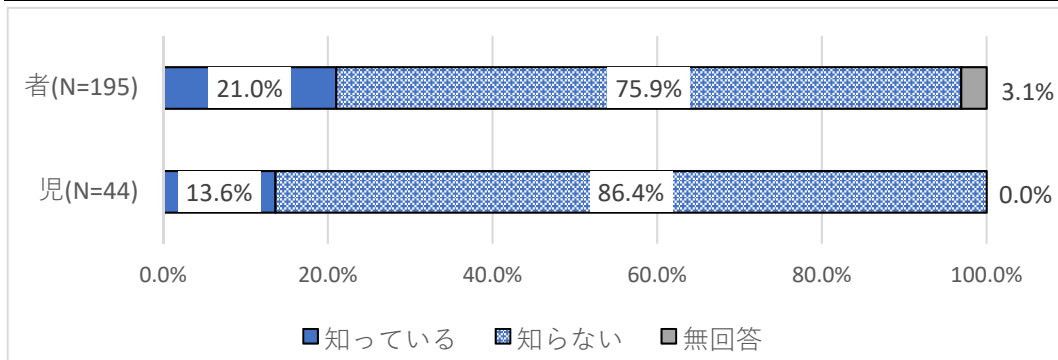


その他の意見

- 【者】 ・本人の特性・コミュニケーションの難しさ ・身近な人や医療関係者で完結している ・自己完結・相談の必要性がない
・プライバシー・心理的抵抗 ・相談に対する諦め・効果への不信感 ・時間的制約
- 【児】 ・本人の特性・コミュニケーションの難しさ ・幼いため ・プライバシー・心理的抵抗 ・相談する気がない

問12(児:問11)付問2 【相談していない理由に、「1.困っていない」以外を回答した人】

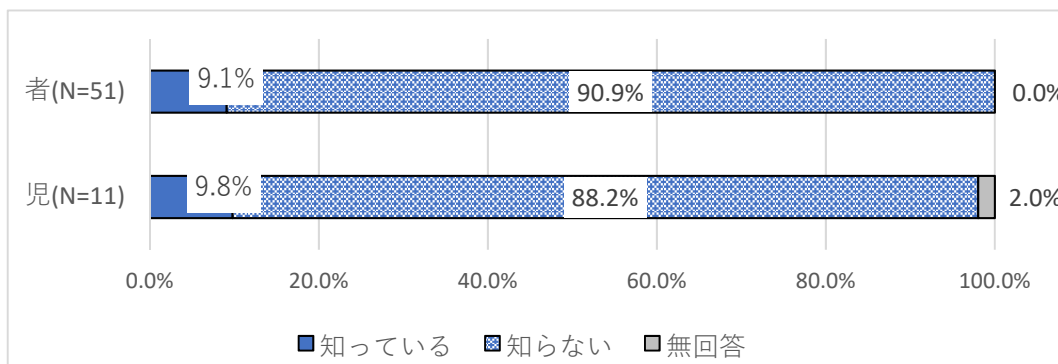
三田市では、障害のある人や家族などが相談できる、障害者総合相談窓口「きいてネット」を総合福祉保健センターに設置しており、来所や電話での相談も受け付けていますがご存知ですか【SA】
「知らない」と回答した割合について、障害者 75.9%、障害児 86.4%となり、どちらも半数以上を占めている。



<問12(児:問11)付問1:どこに相談したらいいかわからない>×

<問12(児:問11)付問2:きいてネット知らない>

「どこに相談したらいいかわからない」と回答した人の約9割が見者共にきいてネットを知らないと答えている。



<問12付問1:どこに相談したらいいかわからない>×<問12付問2:きいてネット知らない>

×<手帳種別>×<年齢>

「どこに相談したらいいかわからない」と「きいてネット知らない」両方回答した人は、手帳別にみると、障害者は、療育手帳(16.2%)が最も多く、精神障害者保健福祉手帳(13.5%)が次に多かった。
障害児は、療育手帳(10.1%)のみで、他手帳は該当者がいなかった。
手帳種別ごとにどの年齢が多かったかをみると、障害者は、身体障害者手帳 60歳代(34.8%)、療育手帳 20歳代(45.5%)、精神障害者保健福祉手帳 50歳代(38.5%)の順に多かった。
障害児は、療育手帳 6～8歳(50.0%)が最も多かった。

者(18歳以上)

(N=45)

身体障害者手帳 n=23	療育手帳 n=11	精神障害者保健福祉手帳 n=13	自立支援医療(精神通院) n=12	難病(特定疾患)、医療費の助成 n=1	医師から発達障害と診断される等 n=6	医師から高次脳機能障害として診断 n=1
5.3%	16.2%	13.5%	17.1%	4.2%	18.8%	6.7%

※本表の構成比は、母集団構成に合わせ補正を行っている。

児(18歳未満)

(N=10)

身体障害者手帳 n=0	療育手帳 n=10	精神障害者保健福祉手帳 n=0	自立支援医療(精神通院) n=0	難病(特定疾患)、医療費の助成 n=0	医師から発達障害と診断される等 n=6	医師から高次脳機能障害として診断 n=0	障害福祉サービス・地域生活支援事業等の受給者証 n=2
0.0%	10.1%	0.0%	0.0%	0.0%	18.8%	0.0%	6.7%

※本表の構成比は、母集団構成に合わせ補正を行っている。

者(18歳以上)

(N=45)

	身体障害者 手帳 n=23	療育手帳 n=11	精神障害者保 健福祉手帳 n=13	自立支援医療 (精神通院) n=12	難病(特定疾 患)、医療費 の助成 n=1	医師から発達 障害と診断さ れる等 n=6	医師から高次 脳機能障害と して診断 n=1
20歳未満	0.0%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
20歳代	8.7%	45.5%	7.7%	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%
30歳代	0.0%	9.1%	7.7%	8.3%	0.0%	16.7%	0.0%
40歳代	13.0%	18.2%	30.8%	41.7%	0.0%	0.0%	0.0%
50歳代	13.0%	0.0%	38.5%	33.3%	0.0%	33.3%	100.0%
60歳代	34.8%	9.1%	7.7%	8.3%	100.0%	0.0%	0.0%
70歳代	17.4%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
80歳以上	8.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	4.3%	9.1%	7.7%	8.3%	0.0%	16.7%	0.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

児(18歳未満)

(N=10)

	身体障害者 手帳 n=0	療育手帳 n=10	精神障害者保 健福祉手帳 n=0	自立支援医療 (精神通院) n=0	難病(特定疾 患)、医療費 の助成 n=0	医師から発達 障害と診断さ れる等 n=6	医師から高次 脳機能障害と して診断 n=0	障害福祉サー ビス・地域生 活支援事業等 の受給者証 n=2
0～2歳	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
3～5歳	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
6～8歳	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	66.7%	0.0%	100.0%
9～11歳	0.0%	10.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%
12～14歳	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
15～17歳	0.0%	20.0%	0.0%	0.0%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%
総計	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%

基本目標5 権利擁護と相談体制の充実（福祉基本計画 P70）

（3）「障害や特性があることで差別を受けたり嫌な思いをしたことがある」と答える障害のある人の割合

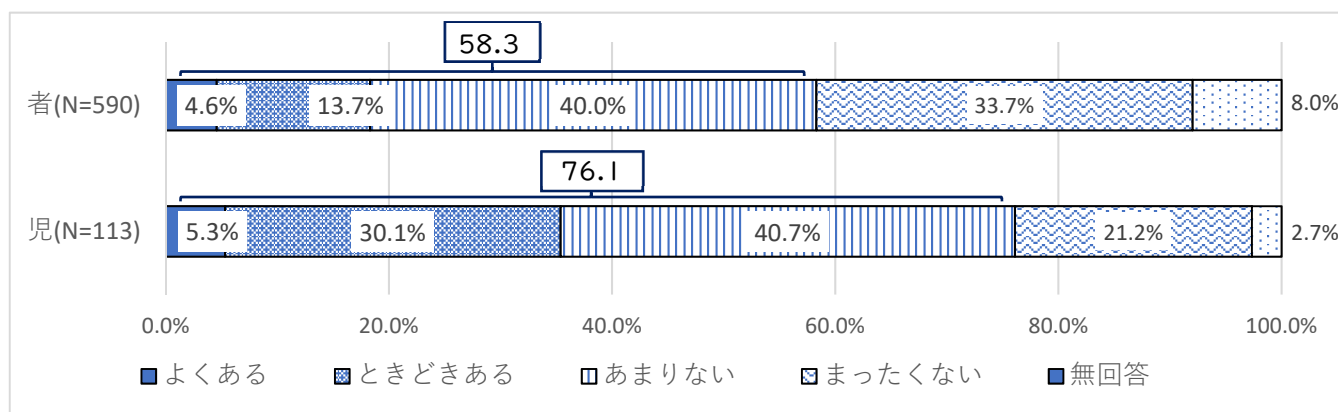
項目	指標	当初基準値 (R4)	目標 (R11)	中間評価 (R8)	差分 (R8-R4)
合理的配慮の提供 や障害者の差別解 消に向けた理解促 進を図る	「障害や特性がある ことで差別を受け たり嫌な思いをし たことがある」と 答える障害の ある人の割合	18歳以上 59.9% 18歳未満 81.5%	18歳以上 50.0% 18歳未満 60.0%	18歳以上 58.3% 18歳未満 76.1%	+1.6% +5.4%

問16（児：問15）あなたは、障害や特性があることで差別を受けたり嫌な思いをしたことがありますか
【SA】

※「差別を受けたり嫌な思いをしたことがある」の判断は「よくある」「ときどきある」「あまりない」の合計を指標としている。

【障害者（18歳以上）】 障害者は58.3%で、当初基準値59.9%に対し1.6%減少。

【障害児（18歳未満）】 障害児は76.1%で、当初基準値81.5%に対し5.4%減少。



<問16（児：問15）：差別や嫌な思いの有無>×<地区>

「差別あり」（問16「よくある」「ときどきある」「あまりない」の合計）について、障害者は、どの地区も6割程度は差別があると回答。障害児も、該当なしの地区を除き、どの地区も6割以上差別があると回答があった。

「差別なし」（問16「まったくなく」）については、障害者はどの地区も3～4割程度がないと回答。障害児はサンプル数が少ないため、数値は傾向を示す参考値ではあるが、どの地区も1～3割程度がないと回答。

総じて、差別や嫌な思いの有無は、地域間で大きな差はなく、広範な共通性が見られる。

者（18歳以上）

(N=543)

	三田地区 n=61 (n=36)	三輪地区 n=43 (n=20)	広野地区 n=21 (n=14)	小野地区 n=11 (n=6)	高平地区 n=10 (n=5)	藍地区 n=25 (n=13)	本庄地区 n=12 (n=9)	フラワー タウン地区 n=74 (n=42)	ウッディ タウン地区 n=79 (n=48)	カルチャー タウン地区 n=6 (n=5)	無回答 n=2 (n=1)
差別あり	58.7%	63.2%	52.5%	57.9%	55.6%	55.6%	54.5%	61.2%	59.4%	54.5%	22.2%
(差別なし)	34.6%	29.4%	35.0%	31.6%	27.8%	28.9%	40.9%	34.7%	36.1%	45.5%	11.1%

※本表の構成比は、母集団構成に合わせ補正を行っている。

※本表の（）は、差別なし（問16「まったくなく」）の回答者数を指す

児（18歳未満）

(N=110)

	三田地区 n=16 (n=2)	三輪地区 n=9 (n=4)	広野地区 n=5 (n=2)	小野地区 n=2 (n=0)	高平地区 n=0 (n=1)	藍地区 n=7 (n=3)	本庄地区 n=3 (n=1)	フラワー タウン地区 n=21 (n=3)	ウッディ タウン地区 n=21 (n=8)	カルチャー タウン地区 n=2 (n=0)
差別あり	88.9%	64.3%	71.4%	100.0%	0.0%	70.0%	60.0%	87.5%	70.0%	100.0%
(差別なし)	11.1%	28.6%	28.6%	0.0%	100.0%	30.0%	20.0%	12.5%	26.7%	0.0%

※本表の構成比は、母集団構成に合わせ補正を行っている。

※本表の（）は、差別なし（問15「まったくなく」）の回答者数を指す

<問16(児:問15):差別や嫌な思い【有】>×<手帳種別>×<年齢>

者(18歳以上)

「差別あり」(問16「よくある」「ときどきある」「あまりない」の合計)と回答した人は、手帳別にみると、障害者は、精神障害者保健福祉手帳(77.1%)と療育手帳(76.5%)が同じくらいの割合で多かった。

手帳種別ごとにどの年齢が多かったかをみると、身体障害者手帳は80歳代(31.1%)、療育手帳は20歳代(34.6%)、精神障害者保健福祉手帳は50歳代(25.7%)の順に多かった。

総じて、「差別を受けたり嫌な思いをしたことがある」という人のうち、主に療育手帳所持者の若年層、及び精神障害者保健福祉手帳所持者の中年層が多く、身体手帳所持者は高齢層が多いことが読み取れる。

各手帳において、差別を受けたり嫌な思いをしている年齢層に偏りがある。

(N=344)

身体障害者手帳 n=225	療育手帳 n=52	精神障害者保健福祉手帳 n=74	自立支援医療(精神通院) n=59	難病(特定疾患)、医療費の助成 n=15	医師から発達障害と診断される等 n=29	医師から高次脳機能障害として診断 n=10
52.0%	76.5%	77.1%	84.3%	62.5%	90.6%	66.7%

※本表の構成比は、母集団構成に合わせ補正を行っている。

(N=344)

	身体障害者手帳 n=225	療育手帳 n=52	精神障害者保健福祉手帳 n=74	自立支援医療(精神通院) n=59	難病(特定疾患)、医療費の助成 n=15	医師から発達障害と診断される等 n=29	医師から高次脳機能障害として診断 n=10
20歳未満	0.0%	13.5%	1.4%	0.0%	0.0%	6.9%	0.0%
20歳代	1.8%	34.6%	12.2%	13.6%	0.0%	37.9%	0.0%
30歳代	3.1%	26.9%	14.9%	16.9%	0.0%	20.7%	10.0%
40歳代	6.2%	11.5%	21.6%	25.4%	13.3%	10.3%	10.0%
50歳代	9.3%	7.7%	25.7%	20.3%	13.3%	17.2%	20.0%
60歳代	23.6%	3.8%	13.5%	13.6%	26.7%	0.0%	10.0%
70歳代	23.6%	0.0%	0.0%	0.0%	20.0%	0.0%	20.0%
80歳以上	31.1%	0.0%	5.4%	5.1%	26.7%	0.0%	30.0%
無回答	1.3%	1.9%	5.4%	5.1%	0.0%	6.9%	0.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

児(18歳未満)

「差別あり」(問16「よくある」「ときどきある」「あまりない」の合計)と回答した人は、手帳別にみると、障害児は、療育手帳(77.8%)と身体障害者手帳(71.4%)が同じくらいの割合で多かった。

手帳種別ごとにどの年齢が多かったかをみると、身体障害者手帳は15~17歳(40.0%)が多く、療育手帳は、6~17歳にかけて約2~3割が差別ありと答えており、特に高校生15~17歳(27.3%)、小学校低学年層6~8歳(26.0%)の順に多かった。

総じて、「差別を受けたり嫌な思いをしたことがある」という人は、主に療育手帳所持者のうち学齢層、身体障害者手帳所持者のうち高校生に多いことが読み取れる。

(N=86)

身体障害者手帳 n=15	療育手帳 n=77	精神障害者保健福祉手帳 n=1	自立支援医療(精神通院) n=0	難病(特定疾患)、医療費の助成 n=3	医師から発達障害と診断される等 n=27	医師から高次脳機能障害として診断 n=1	障害福祉サービス・地域生活支援事業等の受給者証 n=23
71.4%	77.8%	33.3%	0.0%	75.0%	84.4%	100.0%	76.7%

※本表の構成比は、母集団構成に合わせ補正を行っている。

(N=86)

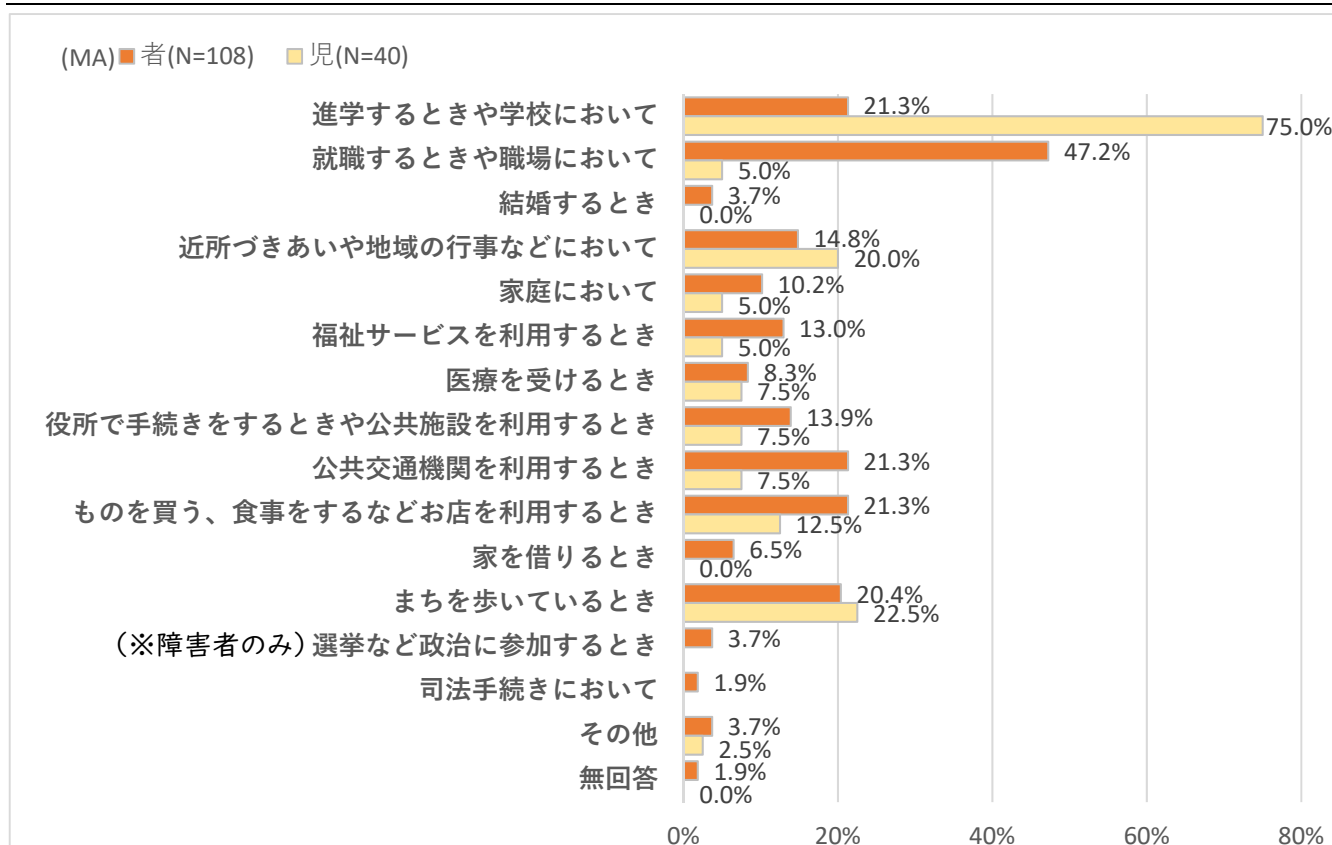
	身体障害者 手帳 n=15	療育手帳 n=77	精神障害者 保健福祉手 帳 n=1	自立支援医 療(精神通 院) n=0	難病(特定疾 患)、医療費 の助成 n=3	医師から発達 障害と診断さ れる等 n=27	医師から高次 脳機能障害と して診断 n=1	障害福祉サー ビス・地域生 活支援事業 等の受給者証 n=23
0～2歳	0.0%	1.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
3～5歳	20.0%	3.9%	0.0%	0.0%	0.0%	3.7%	0.0%	8.7%
6～8歳	6.7%	26.0%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	0.0%	13.0%
9～11歳	20.0%	20.8%	0.0%	0.0%	0.0%	22.2%	0.0%	34.8%
12～14歳	0.0%	18.2%	100.0%	0.0%	33.3%	25.9%	0.0%	13.0%
15～17歳	40.0%	27.3%	0.0%	0.0%	33.3%	22.2%	0.0%	26.1%
不明	13.3%	2.6%	0.0%	0.0%	33.3%	3.7%	100.0%	4.3%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	0.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

問16(児:問15)付問1 それは、どのような場面ですか。【MA】

※当設問は、問16「よくある」「ときどきある」の回答者のみが回答し、「あまりない」の回答者は含まれない。

「差別を受けたり嫌な思いをしたことがある」という場面において、障害者は、上位5項目に回答が集中する傾向がみられ、「就職するときや職場において(47.2%)」が最も多く、次に「進学するときや学校において」「公共交通機関を利用するとき」「ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき」(21.3%)、「まちを歩いているとき」(20.4%)の順に多かった。

障害児は、上位3項目に回答が集中する傾向がみられ、「進学するときや学校において」(75.0%)が最も多く、次に「まちを歩いているとき」(22.5%)、「近所づきあいや地域の行事などにおいて」(20.0%)が多かった。



その他の意見

【者】 ・対人関係・コミュニケーション ・民間サービスの利用時(散髪) ・電話対応

【児】 ・身障者用トイレを利用するとき(設備設計の不備・多様な利用ニーズへの配慮不足)

者(18歳以上)

<問16付問1:差別・嫌な思いの場面>×<年齢>×<手帳種別【身体障害者手帳】>

身体障害者手帳所持者において、回答件数が多かった場面(回答総数109件)のうち、上位4項目に着目。
いずれも40～60歳代の身体障害者手帳所持者に多い結果となった。

- 「就職するときや職場において」(18件) … 50歳代(27.8%)に多い
「ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき」(15件) … 40歳代(40.0%)に多い
「公共交通機関を利用するとき」(14件) … 60歳代(35.7%)に多い
「まちを歩いているとき」(12件) … 60歳代(33.3%)に多い

(N = 48)

	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上	総計
進学するときや学校において (n=7)	14.3%	14.3%	57.1%	0.0%	0.0%	0.0%	14.3%	100.0%
就職するときや職場において (n=18)	11.1%	11.1%	22.2%	27.8%	16.7%	5.6%	5.6%	100.0%
結婚するとき (n=3)	0.0%	0.0%	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	0.0%	100.0%
近所づきあいや地域の行事などにおいて (n=7)	0.0%	14.3%	14.3%	28.6%	14.3%	0.0%	28.6%	100.0%
家庭において (n=2)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	100.0%
福祉サービスを利用するとき (n=7)	0.0%	14.3%	14.3%	14.3%	14.3%	28.6%	14.3%	100.0%
医療を受けるとき (n=4)	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	100.0%
役所で手続きをするときや公共施設を利用するとき (n=7)	0.0%	0.0%	14.3%	14.3%	28.6%	14.3%	28.6%	100.0%
公共交通機関を利用するとき (n=14)	7.1%	7.1%	21.4%	7.1%	35.7%	7.1%	14.3%	100.0%
ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき (n=15)	0.0%	0.0%	40.0%	20.0%	26.7%	0.0%	13.3%	100.0%
家を借りるとき (n=6)	0.0%	0.0%	33.3%	16.7%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
まちを歩いているとき (n=12)	8.3%	8.3%	16.7%	16.7%	33.3%	0.0%	16.7%	100.0%
選挙など政治に参加するとき (n=4)	0.0%	0.0%	0.0%	25.0%	50.0%	0.0%	25.0%	100.0%
司法手続きにおいて (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
その他 (n=2)	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%

※本設問における身体障害者手帳所持者の回答総数：109件

<問16付問1:差別・嫌な思いの場面>×<年齢>×<手帳種別【療育手帳】>

療育手帳所持者において、回答件数が多かった場面(回答総数49件)のうち、上位2項目に着目。
いずれも20～30歳代の療育手帳所持者に多い結果となった。

- 「進学するときや学校において」(10件) … 20歳代(40.0%)に多い
「就職するときや職場において」(13件) … 30歳代(53.8%)に多い

(N = 30)

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	総計
進学するときや学校において (n=10)	20.0%	40.0%	20.0%	10.0%	10.0%	0.0%	0.0%	100.0%
就職するときや職場において (n=13)	7.7%	15.4%	53.8%	15.4%	7.7%	0.0%	0.0%	100.0%
近所づきあいや地域の行事などにおいて (n=3)	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
家庭において (n=2)	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%	100.0%
福祉サービスを利用するとき (n=5)	20.0%	0.0%	80.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
医療を受けるとき (n=2)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
公共交通機関を利用するとき (n=4)	50.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき (n=3)	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
まちを歩いているとき (n=6)	0.0%	50.0%	33.3%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
司法手続きにおいて (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

※本設問における療育手帳所持者の回答総数：49件

<問16付問1:差別・嫌な思いの場面>×<年齢>×<手帳種別【精神障害者保健福祉手帳】>

精神障害者保健福祉手帳所持者において、回答件数が多かった場面(回答総数74件)は、「就職するときや職場において」(21件)で、40～50歳代(28.6%)に多かった。

(N = 38)

	20歳未満	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以上
進学するときや学校において (n=6)	16.7%	33.3%	16.7%	33.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
就職するときや職場において (n=21)	0.0%	19.0%	23.8%	28.6%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%
結婚するとき (n=1)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
近所づきあいや地域の行事などにおいて (n=7)	14.3%	0.0%	14.3%	14.3%	28.6%	28.6%	0.0%	0.0%
家庭において (n=8)	0.0%	0.0%	37.5%	25.0%	0.0%	37.5%	0.0%	0.0%
福祉サービスを利用するとき (n=4)	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
医療を受けるとき (n=5)	0.0%	0.0%	20.0%	20.0%	40.0%	20.0%	0.0%	0.0%
役所で手続きをするときや公共施設を利用するとき (n=6)	0.0%	16.7%	33.3%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%
公共交通機関を利用するとき (n=4)	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%
ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき (n=4)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	50.0%	0.0%	0.0%
家を借りるとき (n=1)	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
まちを歩いているとき (n=4)	0.0%	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%
司法手続きにおいて (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
その他 (n=2)	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%

※本設問における精神障害者保健福祉手帳所持者の回答総数：74件

児(18歳未満)

※精神障害者保健福祉手帳は回答数が非常に少ないため省く。

<問15付問1:差別・嫌な思いの場面>×<年齢>×<手帳種別【身体障害者手帳】>

身体障害者手帳所持者において、サンプル数が少ないため、数値は傾向を示す参考値ではあるが、「進学するときや学校において」が最も回答数が多かった(7件中4件)。また、年齢層に関して差異はなかった。

(N=7)

	0~2歳	3~5歳	6~8歳	9~11歳	12~14歳	15~17歳	不明	総計
進学するときや学校において (n=4)	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	0.0%	25.0%	25.0%	100.0%
近所づきあいや地域の行事などにおいて (n=2)	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%
福祉サービスを利用するとき (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
まちを歩いているとき (n=1)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%

※本設問における身体障害者手帳所持者の回答総数:9件

<問15付問1:差別・嫌な思いの場面>×<年齢>×<手帳種別【療育手帳】>

療育手帳所持者において、回答件数が多かった場面(回答総数62件)のうち、上位3項目に着目。

「進学するときや学校において」(27件) … 学齢期6~17歳にかけて2割程度回答があった

「まちを歩いているとき」(9件) … 6~8歳(44.4%)に多い

「近所づきあいや地域の行事などにおいて」(6件) … 15~17歳(50.0%)に多い

(N=35)

	0~2歳	3~5歳	6~8歳	9~11歳	12~14歳	15~17歳	不明	総計
進学するときや学校において (n=27)	0.0%	0.0%	25.9%	25.9%	22.2%	18.5%	7.4%	100.0%
就職するときや職場において (n=2)	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%
近所づきあいや地域の行事などにおいて (n=6)	0.0%	16.7%	33.3%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	100.0%
家庭において (n=2)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	100.0%
福祉サービスを利用するとき (n=2)	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%
医療を受けるとき (n=3)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	100.0%
役所で手続きをするときや公共施設を利用するとき (n=3)	0.0%	0.0%	33.3%	33.3%	33.3%	0.0%	0.0%	100.0%
公共交通機関を利用するとき (n=3)	0.0%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%	33.3%	0.0%	100.0%
ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき (n=4)	0.0%	0.0%	25.0%	25.0%	25.0%	0.0%	25.0%	100.0%
まちを歩いているとき (n=9)	0.0%	0.0%	44.4%	22.2%	0.0%	22.2%	11.1%	100.0%
その他 (n=1)	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

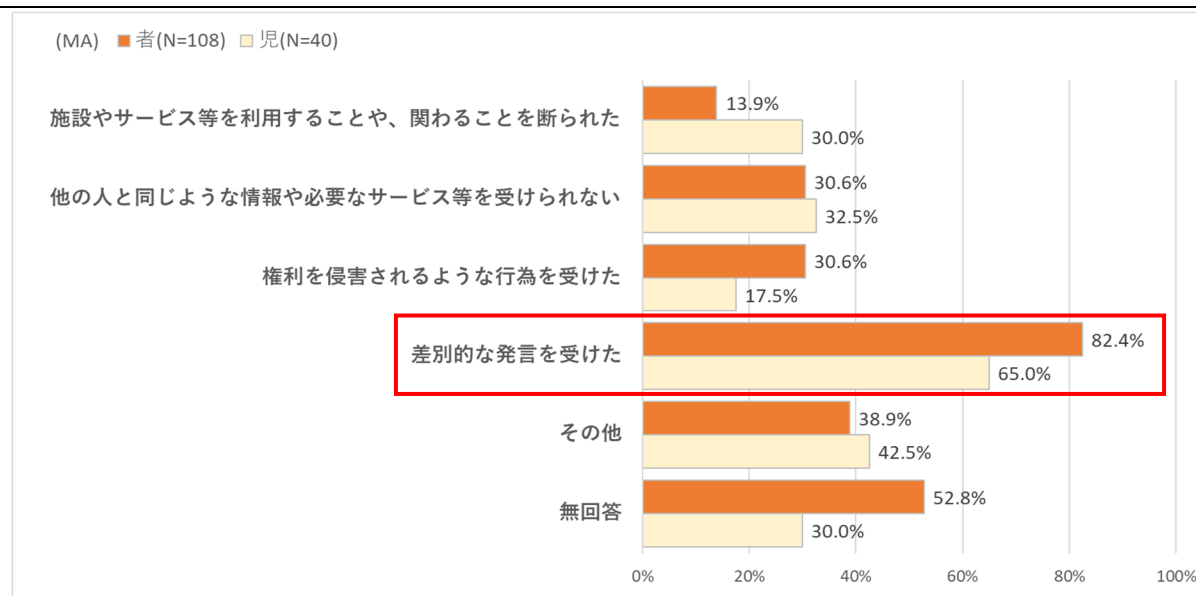
※本設問における療育手帳所持者の回答総数:62件

問 16 (児:問15) 付問 2 それは、どのような内容ですか。【MA】

「差別的な発言を受けた」が障害児者共に最も多かった(者:82.4%、児:65.0%)。その他も約4割を占める。

障害者は、「他の人と同じような情報や必要なサービス等を受けられない」「権利を侵害されるような行為を受けた」(30.6%)が続いて多かった。

障害児は、「他の人と同じような情報や必要なサービス等を受けられない」(32.5%)、「施設やサービス等を利用することや、関わることを断られた」(30.0%)が続いて多かった。



●その他の意見

差別・嫌な思いの場面	(者) 内容	(児) 内容
進学するときや学校において	・学校の対応・理解不足 ・生徒間の直接的な嫌がらせ	・学校の対応・理解不足、不安 ・生徒間の直接的な嫌がらせ ・環境による心理的負担
就職するときや職場において	・採用選考・就職活動における差別、 ・社会・職場の環境や理解不足 ・職場における人間関係・心理的負担	就職への不安
近所づきあいや地域の行事などにおいて	・近隣住民からの誤解・偏見 ・地域コミュニティからの孤立 ・地域生活における安全上の問題 (身体的特性による壁)	理解不足・合理的配慮の欠如
家庭において	全般的な心理的不安	
福祉サービスを利用するとき	・支援者・専門家による不適切な対応 ・利用者コミュニティからの孤立	
医療を受けるとき	・精神障害に対する差別的言動 ・全般的な心理的不安	周囲からの拒絶反応・偏見的態度
役所で手続きをするときや公共施設を利用するとき	・窓口職員の配慮欠如 ・全般的な心理的不安	
公共交通機関を利用するとき	周囲からの拒絶反応・偏見的態度	周囲からの拒絶反応・偏見的態度
ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき	・店舗側の不当な扱い ・店舗側のバリアフリー不足 ・周囲からの拒絶反応・偏見的態度	手を振り回してあたったら怒られた
まちを歩いているとき	・店舗側の不当な扱い ・店舗側のバリアフリー不足 ・周囲からの拒絶反応・偏見的態度	周囲からの拒絶反応・偏見的態度
その他	「聞こえない」ことに対する無視	身障者用トイレが独立しておらず男女別トイレにあるため利用できなかった

<問16付問1:差別・嫌な思いの場面>×<問16付問2:差別・嫌な思いの内容>

者(18歳以上)

全体的な傾向…「就職するときや職場において」が共通して問題となりやすい場面であった。

「差別的な発言を受けた」場面

「就職するときや職場において」(30.3%)が最も多く、次に「進学するときや学校において」(18.0%)

「他の人と同じような情報や必要なサービス等を受けられない」場面

就労面の他に、「役所で手続きをするときや公共施設を利用するとき」(21.2%)が多かった。

「権利を侵害されるような行為を受けた」場面

就労面の他に、「進学するときや学校において」「公共交通機関を利用するとき」(18.2%)が多かった。

「施設やサービス等を利用することや、関わることを断られた」場面

就労面の他に、「役所で手続きをするときや公共施設を利用するとき」(26.7%)が多かった。

(N=108)

	施設やサービス等 を利用すること や、関わることを 断られた (n=15)	他の人と同じよう な情報や必要な サービス等を受け られない (n=33)	権利を侵害される ような行為を受け た (n=33)	差別的な発言を 受けた (n=89)	その他 (n=42)	無回答 (n=57)
進学するときや学校において	6.7%	6.1%	18.2%	18.0%	11.9%	1.8%
就職するときや職場において	26.7%	27.3%	24.2%	30.3%	19.0%	17.5%
結婚するとき	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	5.3%
近所づきあいや地域の行事などにおいて	6.7%	6.1%	0.0%	5.6%	7.1%	8.8%
家庭において	0.0%	0.0%	12.1%	7.9%	2.4%	1.8%
福祉サービスを利用するとき	13.3%	6.1%	6.1%	3.4%	7.1%	8.8%
医療を受けるとき	0.0%	0.0%	3.0%	3.4%	7.1%	7.0%
役所で手続きをするときや公共施設を利用するとき	26.7%	21.2%	3.0%	1.1%	7.1%	5.3%
公共交通機関を利用するとき	0.0%	15.2%	18.2%	6.7%	7.1%	7.0%
ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき	20.0%	12.1%	6.1%	5.6%	11.9%	10.5%
家を借りるとき	0.0%	0.0%	0.0%	3.4%	0.0%	8.8%
まちを歩いているとき	0.0%	0.0%	6.1%	10.1%	16.7%	8.8%
選挙など政治に参加するとき	0.0%	0.0%	0.0%	1.1%	0.0%	5.3%
司法手続きにおいて	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	3.5%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※ %は各差別内容の有効回答者数(表上部の列別 n)を分母として算出。

児（18歳未満）

<問15付問1：差別・嫌な思いの場面>×<問16付問2：差別・嫌な思いの内容>

全体的な傾向…「進学するときや学校において」が共通して問題となりやすい場面であった。

「差別的な発言を受けた」場面

「進学するときや学校において」（46.2%）が最も多く、次に「まちを歩いているとき」（19.2%）が多かった。

「他の人と同じような情報や必要なサービス等を受けられない」場面

進学面の他に、「ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき」（23.1%）が多かった。

「権利を侵害されるような行為を受けた」場面

進学面の他に、「まちを歩いているとき」（28.6%）が多かった。

「施設やサービス等を利用することや、関わることを断られた」場面

進学面の他に、「近所づきあいや地域の行事などにおいて」「ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき」（16.7%）が多かった。

(N=40)

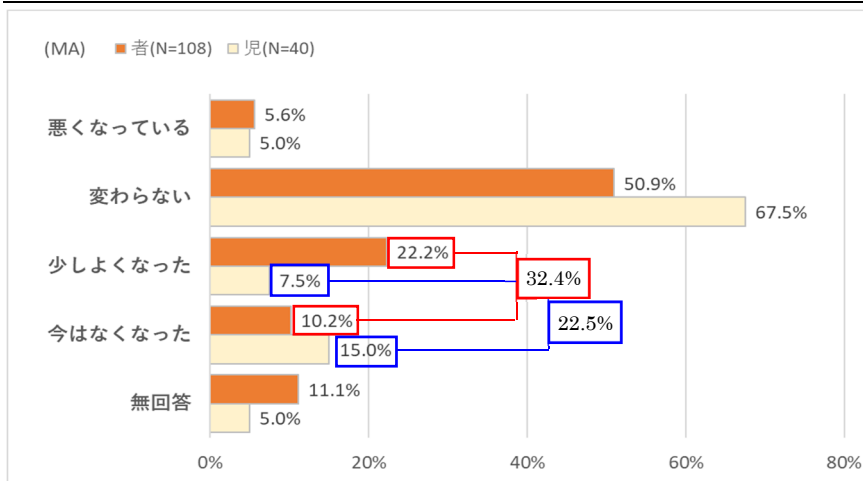
	施設やサービス等 を利用すること や、関わることを 断られた (n=12)	他の人と同じよう な情報や必要な サービス等を受け られない (n=13)	権利を侵害される ような行為を受け た (n=7)	差別的な発言を 受けた (n=26)	その他 (n=17)	無回答 (n=12)
進学するときや学校において	25.0%	46.2%	28.6%	46.2%	52.9%	50.0%
就職するときや職場において	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	8.3%
結婚するとき	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
近所づきあいや地域の行事などにおいて	16.7%	0.0%	14.3%	7.7%	5.9%	25.0%
家庭において	8.3%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	0.0%
福祉サービスを利用するとき	8.3%	7.7%	0.0%	3.8%	0.0%	8.3%
医療を受けるとき	8.3%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	8.3%
役所で手続きをするときや公共施設を利用するとき	8.3%	7.7%	0.0%	3.8%	0.0%	0.0%
公共交通機関を利用するとき	0.0%	7.7%	0.0%	3.8%	5.9%	0.0%
ものを買う、食事をするなどお店を利用するとき	16.7%	23.1%	14.3%	15.4%	0.0%	0.0%
家を借りるとき	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
まちを歩いているとき	8.3%	7.7%	28.6%	19.2%	17.6%	0.0%
選挙など政治に参加するとき	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
司法手続きにおいて	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%
総計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

※ %は各差別内容の有効回答者数（表上部の列別 n）を分母として算出。

問16（児：問15）付問3 現在、状況は変わっていますか。【SA】

「変わらない」と回答した人は、障害児者共に半数以上であった。

「少しよくなった」「今はなくなった」の合計回答率（障害者：約3割、障害児：約2割）から、「障害や特性があることで差別を受けたり嫌な思いをしたことがある」状況は、以前より減少している。



第3章 市民の「生の声」と具体例

1 問17：支援を受けて嬉しかったこと・良かったこと 者（18歳以上）

「経済的支援」（医療費助成、年金、タクシー券など）が最も助けになっており、回答者の約 1/4 がその効果を実感している。次いで、「公的支援・福祉制度の充実」と「周囲の人の理解ある対応」（12.7%）、「相談支援員・ケアマネジャーによる伴走支援」と「合理的配慮」（12.3%）が高く評価されており、これらの公的・個人的サポートが生活の質向上に大きく貢献している。

（N=212）

項目	抜粋・要約	割合
経済的支援・負担軽減 （医療費・交通費・税面・年金等含む）	・医療費の助成や自立支援制度、障害年金の受給により、家計の負担や通院への罪悪感が減り精神的にも救われている。 ・タクシー券やバス・高速の割引、各種税金の免除や公共料金の割引が日々の移動や生活の大きな助けになっている。	24.5%
公的支援・福祉制度の充実	優先駐車（障害者スペース）を利用でき、歩行が難しい時や買い物時に近くへ停められることが大きな助けになっている。あわせて日常生活用具（読書機・装具等）の給付や補聴器・スコープ・装具の助成、障害者手帳や ETC 割引、ヘルパー・移動支援などの支援が生活面・経済面・精神面で支えになっている。	12.7%
周囲の人の理解ある対応	・近隣住民や知人、旅先で出会った人々が「障害」ではなく「個性」として温かく見守り声をかけてくれるのが嬉しい。 ・耳の聞こえにくさや移動の不自由さに対し、周囲の人々が嫌な顔をせず親切に同等な立場で接してくれることに感謝している。	12.7%
相談支援員・ケアマネジャーによる伴走支援	・困った時や急なトラブルの際にも専門知識を持って親身に寄り添い、多方面への手配や迅速な対応をしてくれ安心できる。 ・就労移行支援やグループホームの紹介など、生活や人生の選択肢を広げるための具体的なサポートに深く感謝している。	12.3%
合理的配慮	・店頭や公共交通機関で荷物を持ってもらえたり、席を譲る・道を譲るなどの周囲のさりげない親切が心強く嬉しい。 ・筆談や「ゆっくり・はっきり」とした会話、ヘルプマークへの理解ある対応により、安心して外出できている。	12.3%
行政によるサービス・対応	・市役所や福祉課の窓口で、難しい書類の手続きや不慣れな作業を親切・丁寧にサポートしてもらい非常に助かった。 ・孤立しがちな中で職員が話をじっくり聴いて寄り添ってくれたことで、精神的に何度も救われ心強く感じている。	9.0%
居場所の確保・他者との交流	事業所や交流会（シャベリバ等）で同じ境遇の仲間やボランティアと繋がり、親以外の人と話して笑える時間が楽しい。	6.1%
就労・雇用環境における合理的配慮	・在宅勤務やフレックス制度、体調に合わせた業務量の調整など、無理のない柔軟な働き方が認められ感謝している。 ・相談面談や定着支援により職場の人間関係や悩みが解消され、自分の得意を活かして必要とされる喜びを感じている。	3.3%
福祉サービスの充実	金銭管理が難しいため週 1 回の支援を受けており、就職活動ではエントリーシートの添削も受けられて助かっている。デイサービスでは先生や利用者が親切で楽しく過ごせ、外出時に送迎してもらえるのもうれしい。	2.4%
バリアフリー整備	市役所駐車場がしやすいことや、エレベーターの乗降・電車のスロープの対応等	1.9%
園・学校での教育支援	学校の先生方の丁寧な指導や、受け入れてくれたこと。	1.9%
医療・専門職によるケアやサポート	訪問看護や病院での手厚い看護、リハビリ専門職からの温かい励ましの言葉が、闘病や生活の大きな支えになっている。	1.4%
家族・パートナーからの支援	パートナー・子どもからの金銭的・身体的なサポートで日々の暮らしが成り立つ。	0.9%
施設や店舗での環境調整	警備員のいる施設で障害者用駐車スペースを利用できる環境に助けられている。	0.5%
民間サービス・テクノロジーの活用による利便性向上	ミライロ ID などのデジタル技術の活用により、手帳の提示や各種手続きの負担が軽減され利便性が向上している。	0.5%
その他	受けているサポートにはとても感謝しています。健康に過ごせている。	3.3%
今後の改善への期待・要望	予算のあり方や今後の介護保険制度の縮小に対し、これ以上の負担増にならないよう制度の維持・改善を期待している。	0.9%
総計		106.6%

※本設問における回答総数：226 件

1 問 16：支援を受けて嬉しかったこと・良かったこと

児（18歳未満）

全体として、「園・学校での教育支援（30.4%）」が最も多く、次いで「合理的配慮（19.6%）」、「福祉サービスの充実」「周囲の人の理解ある対応」（各 15.2%）と続いている。こうした様々な支援や日々の温かい関わりが、子どもたちの健やかな成長と家族全体の安心に深くつながっていることがうかがえる。

（N=46）

項目	抜粋・要約	割合
園・学校での教育支援	・特別支援学級・教員の配置や連絡ノートによる連携により、個々に合わせた丁寧な見守りや苦手克服の訓練が受けられる。園や学校側が障害を理解して配慮してくれるため、子どもの成長や楽しく通える姿を実感できて有難い。 ・読み上げ・拡大教科書の導入により、音読への抵抗感も減り授業内容の理解が進んだ。	30.4%
合理的配慮	・障害者手帳の提示により、待つことや長時間じっとすることが苦手な子どもでも様々な施設で待ち時間を減らしてもらうことができ、経験できることが増えて助かっている。 ・飲食店で予約なしで食形態を加工してもらえたり、スーパーのレジでかごをカートに置いてくれたりするなど、外出先での柔軟な対応やさりげない気遣いが嬉しかった。	19.6%
福祉サービスの充実	・障害者手帳による運賃・施設料の割引や、放課後デイ・ショートステイの利用により、生活や外出負担が軽減され助かっている。 ・各施設での療育サポートや障害児・医療的ケア児が参加しやすい企画のおかげで、親だけでは大変な映画鑑賞や水遊びなどを経験をさせてもらえる等、大変よくしていただいている。	15.2%
周囲の人の理解ある対応	・友達や先生、地域の温かい理解や優しい声掛けにより、疎外感なく安心して過ごせている。 ・出生後すぐに当事者団体（ダウン症の会）がつながりを作ってくれた。	15.2%
保護者の負担軽減と精神的安定	・放課後デイ等での預かりにより、親が外出するなどの時間を確保できて助かっている。 ・困りごとや対処方法を先生方に相談・指導してもらえる環境があり、精神的な負担軽減や子どもと安心して接することにつながっている。	8.7%
本人の成長	・通所を通じて言葉が増え、自分の気持ちを伝える力や自分でできることがたくさん増えた。 ・新しい友達と話せるようになる等多くの成長が見られ、小学校への進学後も楽しく頑張っている。	8.7%
居場所の確保・他者との交流	家と学校以外のサードプレイスとして放課後デイ等の居場所ができたことや、ヘルパーさんとの関わり、新しい出会い・交流の機会が増えたことが本人の安心に繋がっている。	4.3%
経済的支援	手当の支給により、お金の心配が少し軽減した。	2.2%
その他	足りないところばかりなので、有難い。	2.2%
総計		106.5%

※本設問における回答総数：49 件

2 問17：差別や嫌な思いをした具体例

者（18歳以上）

最も顕著なのは、「社会的偏見・心ない言動」（23.5%）による精神的苦痛である。次いで、「街中・店舗での視線や拒絶反応」（11.1%）や「公共インフラの利用障壁・合理的配慮の欠如」（9.9%）も問題視されている。職場でのパワハラや外見から見えにくい障害への誤解も、日常生活における大きな障壁となっている。

（N=81）

項目	抜粋・要約	割合
社会的偏見・心ない言動	周囲からの不躰な個人情報の詮索や、障害・年金受給に対する心ない暴言、勝手な能力の決めつけに傷ついた、多数派と異なることへのからかいや、独り言などの行動を不審な目で見られる。	23.5%
街中・店舗での視線や拒絶反応	障害者用駐車スペースの利用時やヘルプカードの着用時に、周囲から浴びせられる不躰で鋭い視線が不快に感じる。周囲の目を気にして萎縮してしまう。理容店などの店舗で嫌がらせを受けたりする等。	11.1%
公共インフラの利用障壁、合理的配慮の欠如	公共交通機関の利用時に、手帳の提示やスロープ介助の依頼に対して面倒そうな態度や不適切な対応をとられた。優先エレベーターの満員による見送りや、障害者用駐車スペースの不足、視覚障害者への不親切な案内等。	9.9%
職場でのパワハラ・嫌がらせ・無理解	「障害者だから仕事を任せられない」といった排除や、業務でできないことがあることに対する上司からの悪口、パワハラ。障害への無理解からくる嫌味や不当な叱責により、多くの人が生きづらさや働きづらさを抱えている。	8.6%
外見から見えにくい障害への誤解・不適切な言動	精神障害や内部障害など、見た目で分かりにくい障害のために「怠けている」と疑われ、嫌味や暴言を吐かれる。一度で指示を理解しづらく聞き直した際に、無視されたり心ない言葉をかけられたりしたトラウマ等。	7.4%
学校でのいじめ・仲間外れ	小中学校から大学にいたるまで、クラスメイトやグループワークのペアから仲間外れにされたり、間接的にバカにされたりするいじめ。周囲との人間関係がうまくいかないことで、学校活動やその後の学習に深刻な支障をきたしている。	7.4%
家族・家庭内における無理解	病気への偏見から子供を産むことを批判されたり、体調不良で寝ている時に「気楽でいい」と心ない言葉をかけられたりする家庭内の無理解がある。精神的な苦痛を理解されず「頭がおかしい」と悪者扱いされ家庭で安心できない。	6.2%
就職活動における拒絶・差別	面接時に手帳を提示した途端に断られたり、可否の連絡すらなかったりするなど、採用過程における拒絶や差別が存在する。面接官から性格や障害を嘲笑されるような不適切な言動を受け、就職活動自体を諦めてしまうほど深い傷を負う等。	4.9%
病院での不適切な対応	体調不良による通院のブランクを医師から激しく叱責されたり、適切な診断が遅れて不安な日々を過ごさせられたりする事例。医療現場での指示命令的な強い態度や、急な発熱などへの冷淡な対応に不満や傷つきを感じている。	4.9%
教育現場における理解不足・配慮の欠如	教員が発達障害や視覚障害などの特性を理解せず、口頭での指導で「出来が悪い」と暴言・暴力を振るったり、不適切な実習を強要したりした事例がある。こうした教員の理解不足や配慮の欠如が、クラス内でのいじめを助長している。	4.9%
福祉施設・行政機関での不適切な対応	就学判定や税務手続きなどの窓口において、親子で責められるような対応や、人をバカにしたような態度をとられた経験。信頼すべき福祉センターのスタッフから陰で笑いものにされ、二度と利用したくないと感じるほど深い不信感を抱いた例。	3.7%
精神的苦痛・回答困難	幼少期から現在に至るまで、書ききれないほどの無数の嫌な経験をしており、思い出すこと自体が苦痛であるという声。不安症などの症状も重なり、過去のトラウマから社会のすべてに対して恐怖や萎縮を感じている現状がある。	3.7%
聴覚障害による社会参加の障壁・孤立	周囲の呼びかけや指示が聞こえないことで、活動の終わりを把握できず取り残されたり、自分の意見を言う機会を失ったりしている。聞き直すことで相手から責められ、周囲との人間関係が途絶えてしまうといった社会的な孤立に直面している。	3.7%
アピアランス（外見）の悩み	人工透析の注射痕やストマ（人工肛門など）の着用など、外見的な変化や医療器具への周囲の視線が気になっている。その結果、大浴場やプールなどの共同浴場の利用を諦めたり、強い抵抗感を抱いたりしている。	3.7%
地域社会のモラルと配慮不足	「ゆずりあい駐車場」が対象外の車で塞がれており、必要な時に駐車できないといったマナーの低さを指摘。杖やカートを使用して歩行している際、周囲が猛スピードですれ違うため、ぶつかりそうで怖い思いをする等配慮に欠ける現状がある。	2.5%
制度の壁・福祉サービス不足	障害福祉サービスの支給時間が生活を送る上で不十分であり、必要なサポートを十分に受けられない不満が挙げられている。	1.2%
労働環境・就職活動における障壁	PCスキルなど個人の能力を活かせる仕事先が身近にほとんどなく、障害に応じた適切な雇用の機会が限られている現状がある。	1.2%
移動・歩行時の心理的負担	杖を突いて歩く速度が遅いため、周囲の目が気になったり、移動そのものに強い心理的負担を感じたりしている。	1.2%
総計		109.9%

※本設問における回答総数：89 件

2 問16：差別や嫌な思いをした具体例

児(18歳未満)

最も顕著なのは、「社会的偏見・心ない言動」(37.1%)による精神的苦痛である。次いで、「教育・保育機関での受入拒否・対応不足」(17.1%)や「教育現場における理解不足・指導の質の課題」(11.4%)も問題視されている。合理的配慮の欠如や、外出時の心理的負担、制度上の制約なども、日常生活における大きな障壁となっている。

(N=35)

項目	抜粋・要約	割合
社会的偏見・心ない言動	- 公共の場や店舗において、子供用バギーの利用や特性による騒ぎ・動作への無理解から、冷たい視線を向けられたり周囲に避けられたり、心ない言葉をかけられたりして、親も常に謝罪や不安を強いられている。 - 学校生活や地域において、支援学級在籍などを理由とした、からかいや仲間外れ、外見から分かりにくい障害ゆえに本人の行動を「わざとやっている」と誤解され度重なる注意を受ける等、理解してもらいにくい。	37.1%
教育・保育機関での受入拒否・対応不足	- 保育機関や学校への入園・入学相談時に、障害の程度や状況を尋ねることもなく「特別な対応はできない」と一蹴されたり、受け入れ実績がないことを理由に消極的な対応をされたりした。 - 医療的ケアを理由に保育所の利用を制限され、行事への保護者同伴や費用負担を求められるほか、加配要望に対して必要な配慮がなされない等、体制が整っていない。親から園や学校にお願いすることが多く引け目を感じる。	17.1%
教育現場における理解不足・指導の質の課題	- 支援学級において多様な特性の生徒が一括りにされ授業が成り立っていないほか、担任の指導力次第で学力やできることに大きな差が生まれている。 - 小学校でのいじめ発生時、担任の指導力不足により問題が解決されないまま放置されたほか、運動会等の走行距離も学校側の決めつけで一律に減らされる等、本人の能力に応じた適切な対応がなされていない。	11.4%
合理的配慮の欠如	- 事前に子どもの特性を伝えて利用確認をしたにも関わらず、現場で何の配慮もなされなかったり、医療機関で具体的な相談をする前に受け入れを拒否されたりした。 - ヘルプマークを着用していたが、周囲の理解や配慮が得られず、移動時にぶつかられたり舌打ちされたりした。	8.6%
周囲への気遣い・外出時の心理的負担	- 大声を出してしまう特性から小さなお子さんが多い場所を避ける等、外出時は常に周囲へ気を遣う - 日曜日には放課後等デイサービスがなく、家族が行きたいイベントにも預け先を確保できない。	5.7%
制度・福祉サービスの制限	- 障害の程度によって利用可能なサービスが制限され、希望する放課後等デイサービスを利用できなかったことがある。 - 通学時においても、保護者の同伴がないとバスを利用できない等、家庭の負担となっている。	5.7%
金銭的負担と「子のサポート・仕事」の両立困難	障害者手帳を保持していても受けられる支援は限定的であり、金銭的負担が生じている。子のサポートのために仕事を休むことも困難な状況が続いており、経済的な安定と育児の両立が厳しい。	2.9%
対人関係・コミュニケーションの困難さ	障害の特性上、他者と関わる際にうまくいかないことが多々あり、人間関係の構築は難しいと感じている。	2.9%
公共インフラの利用障壁	公共施設等が使いづらく、はじめから利用を諦めざるを得ないことがある。社会参加の機会が日常的に奪われている。	2.9%
その他	日常生活は送れているものの、今後、通級制度を利用するにあたり、周囲の友人からの反応や視線を懸念する不安がある等	5.7%
総計		100.0%

※本設問における回答総数:35件

3 問18（児：問17）：障害のある人への市民の理解を深めるために必要なこと

問18（児：問17） あなたは、障害のある人への市民の理解を深めるためには、何が必要だと思いますか。【MA】

【障害者（18歳以上）】

「特にない」を除き、「障害や障害者理解についての広報・啓発の充実」（27.8%）が最も多く、次に「学校における人権教育の充実」（20.0%）、「障害のある人の積極的な社会への進出」（16.8%）の順に多かった。

まずは社会全体への正しい情報発信と、教育による底上げが強く求められている。

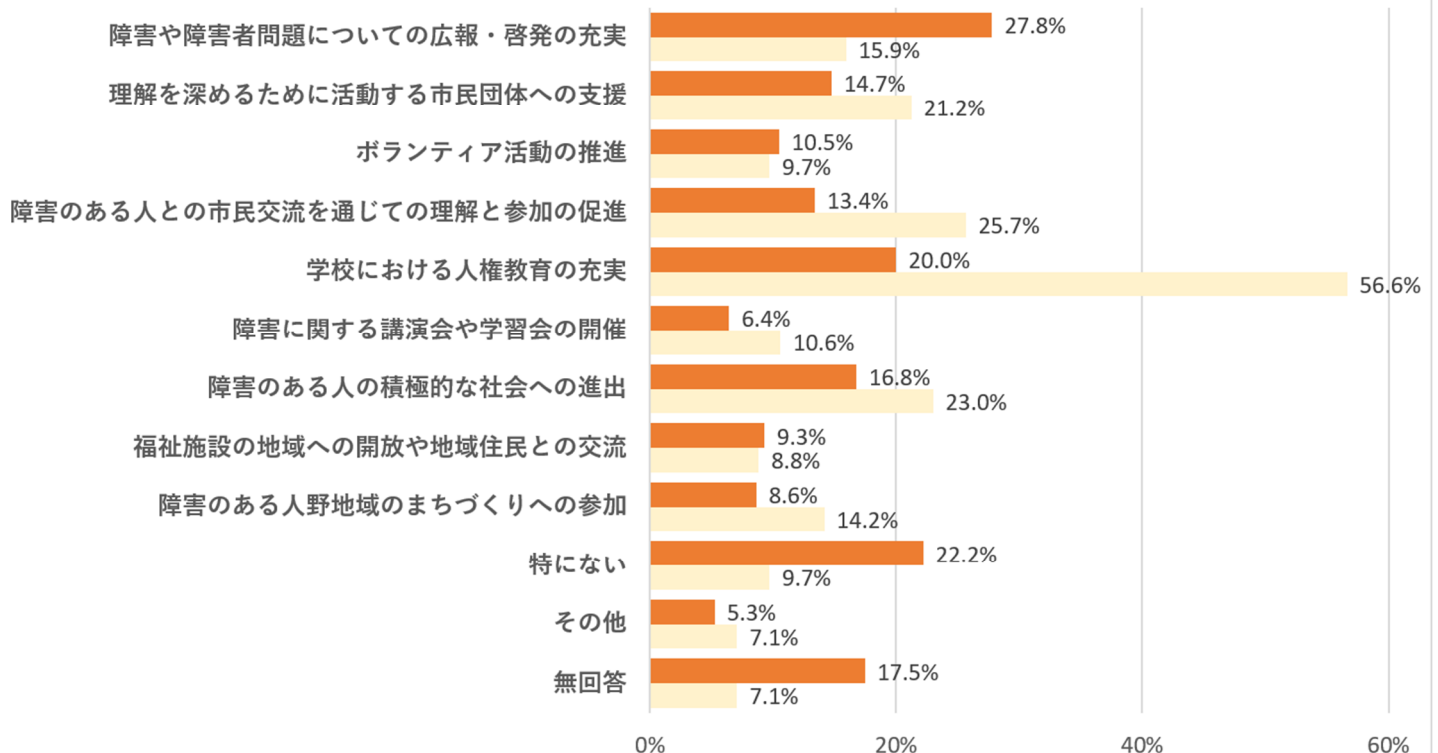
選択肢以外にも、多角的な視点から様々な意見（課題感や現状への認識）が寄せられている。

【障害児（18歳未満）】

「学校における人権教育の充実」（56.6%）が圧倒的に多く、過半数を占める。次いで「障害のある人との市民交流を通じての理解と参加の促進」（25.7%）、「障害のある人の積極的な社会への進出」（23.0%）の順となっており、学びの場での教育を基盤としつつ、実際の交流や社会参加という「体験」を重視する傾向が非常に強い。

⇒ 障害者は「社会の仕組みや広報」を重視し、障害児は「教育と実体験」を重視している。

(MA) ■ 者(N=590) ■ 児(N=113)



その他の意見（障害者の声抜粋）

●実態の周知と個別理解の推進

一人ひとりの実態が多様であることを知ってほしい

●地域社会・受け入れ側の意識改善・配慮

地域での声掛けや、安全に移動できるよう配慮してほしい

●相互理解への諦め

健常者との理解の壁があり諦めている

●社会的な周知・発信の推進

全国的メディアでの報道や、「きいてネット」の活動推進

その他の意見（障害児の声抜粋）

●生活実態の周知

バギー等の福祉用具を「生活の道具」として知ってほしい

●親世代への啓発

障害に対して偏見のない教育を家庭内で伝えてほしい

●教育現場の改革

教える側のスキルアップや専門人材の配置整備の希望

●障害を特別視しない教育・当事者意識の推進

障害を特別視しない教育の推進や、当事者の意識変革

4 問 19：障害福祉施策の推進に関する具体的な意見

者（18歳以上）

今後の施策では、「移動・ハード面のバリアフリー」（13.7%）、「地域コミュニティ・ボランティア・意識啓発」（13.2%）が最上位のニーズである。また、行政には、福祉施策のさらなる改善や窓口対応の効率化（12.7%）が強く求められ、経済的負担の軽減としての各種助成制度の拡充も上位のニーズとして顕在化している。

（N=204）

項目	分類	抜粋・要約	割合
移動・ハード面のバリアフリー	・住環境と移動・施設のバリアフリー ・公共交通機関（駅・バス等）の利便性への要望	住環境、公共施設、公共交通機関におけるバリアフリー化の推進が強く要望されている。具体的には、道路の凹凸や段差の解消、休憩ベンチの設置、公共交通機関の利便性向上（バスのステップ改善、本数増加）等。	13.7%
地域コミュニティ・ボランティア・意識啓発	・周囲の理解促進・偏見や差別の解消 ・地域社会のモラルと配慮不足 ・園・学校のボランティア活動の推進 ・自治会・老人会など地域活動の活性化・充実 ・当事者団体の存続危機と参加促進 ・実態の周知・個別理解	障害者に対する市民の理解促進と偏見・差別の解消が強く求められている。 学校でのボランティア活動推進や地域活動の活性化、そして障害特性の個別理解を広める啓発活動も重要視されている。	13.2%
行政への意見・窓口対応	・福祉施策の改善・サービスの向上 ・行政の窓口対応・手続き（苦情・要望） ・市長の福祉に対する姿勢・発言への不信任感 ・行政経営・計画や予算の適正化 ・アンケート内容の難解さ・配慮不足	福祉施策のさらなる推進と、行政の窓口対応の改善や手続きの簡素化が求められている。 IT化の推進やアンケート内容の改善、市全体の福祉に対する姿勢の見直しも意見として挙げられている。	12.7%
経済的支援・各種助成制度	・経済的支援・補助金の充実 ・医療費の負担軽減 ・障害年金の増額 ・タクシー助成制度の拡大・改善 ・補聴器の助成制度の拡大・改善 ・移動のための福祉器具レンタルの支援 ・住宅改造助成制度の拡大・改善 ・精神福祉手帳による優遇措置の拡大	補聴器や住宅改造助成、障害年金の増額など、経済的負担の軽減と各種助成制度の拡大・改善が強く要望されている。 特にタクシー助成制度の対象拡大や利用枚数の増加、医療費負担の軽減が喫緊の課題。	11.3%
当事者の内面・自立・孤立対策	・本人の自己理解・受容・自立へのアプローチ ・当事者の意識改善 ・障害当事者による、他の当事者への支え ・精神的ケア・トラウマへの理解とサポート ・当事者が抱える孤立と精神的ストレス ・当事者が集える居場所・イベントの創設	当事者が自己理解を深め、孤立を防ぐための居場所やイベントの創設が求められている。 また、本人の自立支援や精神的なケアの重要性も指摘されている。	10.8%
行政・地域への感謝・評価	・行政・地域への感謝・評価 ・社会福祉協議会・ボランティアへの感謝	障害福祉に対する積極的姿勢や行政職員等の親切な対応に感謝の声が多く寄せられた。既存の支援への感謝と今後の継続的な施策推進への期待が示されている。	9.3%
相談・情報発信体制の強化	・情報発信・相談体制の充実 ・相談、精神的孤立	障害福祉に関する情報が利用者に分かりやすく、かつ継続的に発信される相談体制の強化が求められている。 オンラインでの手続き簡素化や、対面以外の相談方法の導入も期待されている。	8.8%
家族の負担・将来への不安	・将来の生活・自立・「家族・親なき後」への不安 ・加齢に伴う活動制限と孤立への不安	高齢化する家族による介護負担や、「親なき後」の生活、将来的な孤立に対する不安が顕著。障害当事者の加齢に伴う活動制限と、具体的な支援の必要性が挙げられている。	5.9%
就労・産業のサポート	・障害者雇用の場の確保・拡大 ・就労支援・働く場へのサポート ・高齢・身体障害による生業（農業）維持の限界 ・就労継続者（働きながら暮らす人）への経済的支援・生活底上げ	障害者の就労機会の確保・拡大と、就労継続を支える経済的支援が求められている。 高齢や身体障害による生業維持の困難や、職場での理解不足に対するサポートの必要性も挙げられています。	4.9%

日常生活支援	・日常生活支援・家事援助(の拡充・要件緩和) ・車いすでの送迎 ・「福祉のごみ出し制度」の検討	日常生活における多様な困難(ゴミ出し、送迎、買物など)への支援拡充が望まれている。特に、車いす利用者への送迎サービスや家事援助の柔軟な対応が求められている。	3.9%
家族の負担・介護者への支援	・症状の進行と家族の不安 ・介護家族への支援(一時預かり・ショートステイの充実) ・老々介護の負担 ・ケアラー条例	家族の症状進行と先行きへの不安、自身も障害を持つ中で老々介護の負担を抱えており、一時預かりやショートステイ等介護家族への支援の充実を求めている。ケアラー条例の成功に強く期待している。	2.5%
災害対策・緊急時対応	災害対策・緊急時対応	災害時に必要な備蓄品(薬品、保護具など)の確保と、薬の確保を含む障害者向けの避難訓練の実施が求められている。これにより、緊急時における障害者の安全と安心が確保されることが期待される。	1.5%
学校教育・教育現場における合理的配慮と人権教育の充実	・学校教育・教育現場における合理的配慮不足 ・人権教育の充実	学校教育現場における合理的配慮の不足解消と、人権教育のさらなる充実が求められている。特に、グレーゾーンの障害や目に見えない障害に対する理解促進の重要性が指摘されている。	1.5%
医療・福祉・救急の連携ネットワーク	・休日・緊急時の救急体制 ・行政と医療・関係機関の連携強化	休日や緊急時の救急体制の改善に加え、行政と医療機関・関係機関の連携強化が求められている。	1.0%
福祉サービス・基盤の適正化	・グループホームの不足 ・福祉施設の統合・適正規模化	グループホームの不足解消と、小規模施設の統合による中規模施設への変革が求められている。これにより、より自立を支援できる施設基盤の整備が期待される。	1.0%
家族・家庭内における無理解	家族・家庭内における無理解	病気について家族の理解を得るのが難しいという課題がある。	0.5%
特になし	特になし	現状で特に困っていることがなく、支援の必要性を感じていないという意見も存在する。一部は、年齢や身体状況の変化により今後困りごとが発生する可能性を認識している。	2.5%
現状維持	現状維持	現在の支援状況に満足しており、このままの継続を希望する意見が複数見られる。	3.4%
総計			108.3%

※本設問における回答総数:221件

4 問18：障害福祉施策の推進に関する具体的な意見

児（18歳未満）

今後の施策では、「経済的支援・各種助成制度」「地域社会における理解啓発・社会参加の推進」（23.1%）が最上位のニーズである。また、「福祉サービス・基盤の適正化」（20.5%）が強く求められ、「学校教育現場における理解教育・合理的配慮」や「相談・情報発信体制の強化」も上位のニーズとして顕在化している。

(N=39)

項目	分類	抜粋・要約	割合
経済的支援・各種助成制度	・手当・制度の所得制限撤廃・緩和 ・申請条件の緩和 ・補聴器の経済的負担 ・保護者への就労・資格取得支援 ・ひとり親家庭への支援 ・通院交通費への助成	補聴器の購入や継続的な修理費用、特別児童扶養手当・福祉サービスの所得制限、対象者の緩和等、成長と生活に不可欠な費用負担の軽減を強く求める。また、保護者の就労・資格取得支援により、経済的自立や福祉人材の確保へ繋げる体制整備を望む。併せて通院に係る交通費の助成や、飛び出し防止を目的とした「ゆずりあい駐車場」の利用対象拡大についても検討してほしい。	23.1%
地域社会における理解啓発・社会参加の推進	・社会全体の理解促進 ・周囲からの誤解・偏見	障害や持病の特性について、誤解や偏見のない社会作りの必要性が指摘された。外見からは分かりにくい障害も多いため、学校や社会全体にもっと周知され、誰もが働きやすく生きやすい環境になることを求める。また、多様な特性を持つ人々をありのままに受け入れ、温かく見守る意識を醸成してほしい。	23.1%
福祉サービス・基盤の適正化	・医療的ケア児向け施設の充実 ・成人後の居場所・就労・居住施設の確保 ・療育の充実・一時預かりの拡充 ・事業所の開所時間の前倒し ・学校卒業後の支援サービスの時間帯拡大 ・家と学校間での送迎サービス	医療的ケア児等の受け入れ先やショートステイ、日中一時支援の施設増設や、サービスの充実を強く求める。また、療育の充実や送迎サービスの拡充、放課後等デイサービスの開所時間を早める等の柔軟な運用により、保護者が仕事や生活と両立しやすい体制を望む。成人後も安心して利用できるよう支援サービスの提供時間帯を拡大させると共に、居場所や就労先、地域社会との交流の場をより一層確保してほしい。	20.5%
学校教育現場における理解教育・合理的配慮	・支援教育の質の確保と人員配置の課題 ・公立高校等への支援学級の新設要望 ・通級指導等の定員制限の緩和 ・学校教育における障害理解 ・教育環境の整備・差別解消	支援学級では個々のレベル差が大きく、現状では適切な指導が行き届いていないため、人員配置の強化や指導体制の抜本的な見直しを強く求める。また、発達障害の有無に関わらず、すべての子どもたちが学習に集中できる環境を確保するため、市は実態を正確に把握し、改善に向けて早急に動くべきである。あわせて、公立高校への支援学級新設や通級指導の枠の拡大、そして誰もが相互理解を深められる教育環境を構築してほしい。	12.8%
相談・情報発信体制の強化	情報発信の一元化	障害の判明直後は心理的にも辛い時期であり、自ら動かなければ情報が得られない現状は保護者にとって負担。市内外で受けられるサービスや補助金等の情報を一元化し、分かりやすく発信することを強く求める。また、進学や就労といったライフステージの移行期においても、次に必要な支援を見通せるような切れ目のない情報提供や、継続して相談できる体制の整備を望む。	10.3%
家族の負担軽減とサポート体制の充実	・親のレスパイト ・ピアサポート支援 ・保護者の負担軽減 ・市主導の家族会運営	保護者が一人で抱え込まずに生活できるよう、レスパイト支援の拡充を求める。また、小学校の旗振り当番は困難であるため、免除規定等の配慮の要望や、市が主体となって保護者同士が交流できる家族会を組織・運営し、互いに支え合える環境作りを望む。特に、相談の機会が限られる保護者にとって、同じ悩みを持つ親同士が気軽に話せる場の創出を強く期待する。	7.7%
当事者の内面・自立・孤立対策	・障害者の能力・可能性に着目した支援 ・将来の生活・自立への不安	障害による制約がある中でも、個々の得意なことや能力を周囲が見出し、社会の一員として自分らしく役割を果たせるように本人の可能性を損なわない丁寧なサポートが重要である。また、現在は家庭や学校の支えて生活できているものの、将来的に一人で暮らしていけるのかといった不安の声は大きく、将来を見通せる継続的な支援体制を望んでいる。	5.1%

行政への意見・窓口対応	・市役所の営業時間 ・行政手続きの迅速化 ・案内窓口の明確化	行政手続きや相談窓口の利用において、現状では対応時間が平日に限定されていることや、手続き先が不明確で迷う場面があることが課題。また、手帳申請等の手続きについては、スムーズに進むよう窓口でのサポート強化を強く求める。	5.1%
移動・ハード面のバリアフリー	ユニバーサルデザインの公園整備	有馬富士公園の遊具は、ある程度の身体機能が備わっていないと利用できないものや、激しい動きを伴うものが中心である。また、遊具の老朽化も目立ち、安全に遊べる場所の確保が困難のため、改善を求める。	2.6%
行政・地域への感謝・評価	行政の窓口対応への感謝	障害福祉課の手厚い支援に感謝している。装具等の必要環境が整っているだけでなく、知識が乏しい保護者に対しても、病院や放課後等デイサービス先を親身かつ丁寧に案内してくださるサポート体制に助かっている。	5.1%
その他	その他	近年、発達障害と言わず、神経発達症と医学的には言うように変わってきている。	2.6%
現状維持	現状維持	現状の支援体制は適切であると捉えており、今後もこのままの形で継続を望んでいる。	2.6%
総計			120.5%

※本設問における回答総数:47 件